

官報

號外 昭和十三年三月八日

○第七十三回貴族院議事速記録第十九號

帝國議會

昭和十三年三月七日(月曜日)午前十時十一分開議

議事日程 第十九號

昭和十三年三月七日

午前十時開議

第一 昭和十三年度歲入歲出總豫算案

並昭和十三年度各特別會計歲入歲出豫算案

豫算案 會議(委員長報告)

第二 豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件

會議(委員長報告)

會議(委員長報告)

第三 重要礦物増産法案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第四 日本産金振興株式會社法案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第五 不動産融資及損失補償法中改正法律案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第六 産業組合中央金庫法中改正法律案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第七 漁業法中改正法律案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第八 産業組合中央金庫特別融通及損

失補償法中改正法律案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

失補償法中改正法律案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第九 産業組合自治監査法案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會

第十 有價證券引受業法案(政府提出)

第一讀會

第十一 支那文化工作施設ニ關スル請願

會

第十二 未成線鐵道南谷線及南勝線一部速成ニ關スル請願

會

第十三 鳥取縣天神川改修工事線上施行ノ請願

會

第十四 國立自然博物館設立ノ請願

會

第十五 石川縣上熊野郵便局ニ集配事務開始ノ請願

會

第十六 和歌山縣勝浦港内暗礁取除工事國庫補助ノ請願

會

第十七 豫定線日田、守實間鐵道速成ノ請願

會

第十八 中華民國及滿洲國ニ於ケル粉輸入關稅ニ關スル請願

會

第十九 學校看護婦令制定ノ請願

會

第二十 小樽港鐵道省埋立地内ニ漁船揚場設置ノ請願 會議

第二十一 北海道山越郡長萬部村ニ函館區裁判所出張所設置ノ請願 會議

○議長(伯爵松平賴壽君) 報告ヲ致サセマス

(丸龜書記官朗讀)

去ル三日内閣總理大臣ヨリ左ノ通第七十三回帝國議會政府委員仰付ケラレタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

厚生省所管事務政府委員

厚生書記官 近藤壤太郎君

去ル四日委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

市街地建築物法中改正法律案特別委員會

委員長 子爵會我 祐邦君

副委員長 男爵加藤 成之君

有價證券業取締法案特別委員會

委員長 子爵保科 正昭君

副委員長 仁井田益太郎君

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

昭和十三年度歲入歲出總豫算案、昭和十三年度各特別會計歲入歲出豫算案、豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件可決報告書

請願委員會特別報告第五號

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

重要礦物増産法案

日本産金振興株式會社法案

同日内閣總理大臣ヨリ左ノ通第七十三回帝國議會政府委員仰付ケラレタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

外務省所管事務政府委員

外務事務官 山形 清君

一昨五日政府ヨリ左ノ議案ヲ提出セリ

有價證券引受業法案

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

産業組合中央金庫法中改正法律案

漁業法中改正法律案

産業組合自治監査法案

中改正法律案

○議長(伯爵松平賴壽君) 是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス、平生夙三郎君公務ニ付會期中、請暇ノ申出ガゴザイマシタ、許可スルコトニ御異議ゴザイマセヌカ

昭和二十五年三月三十一日 第三種郵便物認可

一 昭和十三年度歲入歲出總預算案
一 昭和十三年度各特別會計歲入歲出預算案
案

一 豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件

右衆議院ヨリ受領シタル各案ヲ審査シ總テ衆議院議決案ノ通可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

昭和十三年三月四日

委員長 伯爵林 博太郎

貴族院議長伯爵松平頼壽殿

(伯爵林博太郎君演壇ニ登ル)

○伯爵林博太郎君 只今議題ニ上程サレマシタ昭和十三年度歲入歲出總預算案、昭和十三年度各特別會計歲入歲出豫算案、豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件、以上ニ付キマシテ、豫算委員會ノ經過並ニ結果ヲ御報告ヲ致シマス、昭和十三年度總豫算額ハ御承知ノ通り、二十八億六千七百餘萬圓デアリマス、之ヲ前年度ノ豫算額ト比ベテ見マスルト、此ノ前年度豫算ノ中ニハ、臨時軍事費特別會計ノ設置ニ伴ヒマシテ、之ニ移シテ整理セラル、モノヲ含ンデ居リマスノデ、之ヲ控除シタモノト比較シマスルト、歲入デ四千餘萬圓ヲ減ジテ居リマス、歲出デ七千六百餘萬圓ヲ減ジテ居リマス、一、歲入豫算ノ内譯、經常部ニ於テ二十億二千三百餘萬圓、臨時部ニ於テ一億五千餘萬圓、合計二十一億七千三百餘萬圓ト相成ッテ居リマス、之ヲ前年度ノ改算豫算額ト比較スレバ、經常部デ一億九

千五百餘萬圓ノ増加ニナリ、臨時部ニ於テ八千二百餘萬圓ノ減少トナッテ居リマス、結局差引キマシテ、一億二千二百餘萬圓ノ増加トナリマス、而シテ歲入經常部ノ増加ハ、大體租稅收入増加一億七千二百餘萬圓ヲ算シテ居リマシテ、其ノ外ニ印紙ノ收入、官業、官有財産收入増加ガ之ニ伴ッテ居リマス、又臨時歲入ノ減少ハ、主トシテ特別會計ヨリ一般財源受入ノ減少六千六百餘萬圓アリマスノニ依ッテ次第デアリマス、一、歲出豫算ノ内譯、經常部ニ於テ十六億四千餘萬圓、臨時部ニ於テ十二億二千七百餘萬圓、之ヲ前年度ノ改算豫算額ト比ベルト、經常部ガ一億三千七百餘萬圓、臨時部ニ於テ二億四千四百餘萬圓減少シテ居リマス、前ノ經常部ハ増ニナッテ居リマス、軍備ノ充實ニハ、既定計畫、新規計畫ノ兩々相俟ッテ計上シテアルト説明シテ居リマス、陸海兩省ノ施設經費トシテ新規ニ軍事扶助費ノ増加、軍事援護事業ノ充實ニ要スル經費等ガ五千六百餘萬圓計上サレテ居リマス、又防空經費、液體燃料ノ經費、是等ガ緊要ナルモノデアリマシテ、計上サレテ居リマス、又地方財政補給金ハ前年度ト同様ニ一億圓計上シテアリマス、此ノ外、事變ニ伴フ豫算超過、豫算外支出ノ必要ニ應ズル等ノ爲ニ國庫豫備金ヲ三千七百餘萬圓増シテ居リマス、結局既定經費ニ付テ一億四千餘萬圓節減繰延ヲ行フコトニナッテ居ルト云フノデアリマス、次ニ十三年度豫算ノ歲入ノ不足ハドウスルカト云フ、是ハ公債財源ニ依ルノダ、總額六億

九千四百餘萬圓ニナッテ居リマス、之ニ朝鮮總督府、帝國鐵道、通信事業ノ各特別會計ヲ發行スル公債ガ一億六千六百餘萬圓デアリマスノデ、之ヲ加ヘマス、計八億六千餘萬圓トナルノデアリマス、之ヲ前年度ノ改算豫算上ノ公債發行豫定額ニ比ベマス、一億九百餘萬圓ヲ減少シテ居ルト云フ政府ノ説明デアリマス、以上ハ大體此ノ豫算ノ内容ニ付テ説明ヲ申上ゲタノデアリマスガ、二月十四日カラ豫算委員會總會ヲ開キマシテ質問ニ入リマシタ、今其ノ大要ニ付テ申上ゲテ見タイト思ヒマス、一、財政、七十億ノ公債ノ消化方法ニ付テ政府ハ自信ガアルカ、短期ガ宜イノカ、長期ガ宜イノカ、或ハ長短併用スル積リデアアルカ、利子ノ三億ハ増稅デヤルカ、赤字公債、赤字公債デヤルカ、是カラ齋ス所ノ物價昂騰ニ對スル政府ノ對策ハドウデアアルカト云フ質問デアリマス、政府ハ惡影響ヲ出來ルダケ與ヘヌヤウニ注意ヲスル、直接トシテハ日銀ノ引受、國債「シンヂケート」團ノ利用、郵便局ノ賣出、預金部資金ノ利用等ニ依ルノデアアルガ、其ノ惡影響ヲ防グ爲ニハ基礎工作ガ要ルノダ、即チ國際收支ノ均衡ト云フコトガ大切デアアル、次ニ物資需給ノ調節ガ必要デアアル、爲ニ内地ノ物資ノ生産、輸入ニ付キマシテ適當ナル方法ヲ講ジタイ、又物資ノ消費節約ヲ必要トスル、公債ハ原則トシテ長期公債ニ依ルノダ、或ハ事變ノ情勢デハ若干短期公債ヲ發行スルカモ知レナイ、公債ノ利子ハ戰後經常財源デ支出スル必要アリト考

ヘル、今回ノ事變ハ長ク掛ルノデアアルカラ、増稅ニ依ルトハ明カニ言ヒ兼ネルガ、一應増稅ノ必要ガ起ルカモ知レナイ、事變後成ルベク早く稅制整理ヲヤリタイト云フ考デアアル、經費節減ハ十分ニ實行シテ居ル、赤字財政ハ事變後尙持續スル必要ガアル、健全財政ノミデハ如何カト思フ、デ總豫算二十八億、軍事豫算四十八億、合セテ七十七億位ニナルガ、ドウカ節約シ得ル機會ガアレバ節約シテ貫ヒタイ、戰地第一戰ニ在ル將兵ト同ジ氣分デ、大藏省當局モ覺悟シテ戴キタイ、官民一致、消費節約ヲ爲サナケレバナラスト思フガドウデアアルカ、デ政府モ固ヨリ戰地ノ第一線ノ將士ト同様ノ氣分デ今日處理シテ居ルノデアアル、節約ハ物資ノ種類デ程度ヲ異ニスルノデアアルガ、軍需品、輸出品、輸入品等ニ重點ヲ置イテ居ルノデアアル、又收入ノ増加シタモノハ貯蓄ニ廻シタイ、節約ト貯蓄トデ、十分ニ財政ヲ賄ヒ得ルト云フ考デ是カラ進ンデ行クノデアアル、其ノ外財政ノ問題ニ付キマシテハ、産金ノコトモ質問應答ガアリマシタ、其ノ外ノ質問應答ハ此ノ際省略ヲ致シマス、二、外交、蔣介石政權ガ共產黨ト手ヲ握リマシテ、我ニ對抗シテ來タ時ニ、既ニ彼ヲ對手トシナイノガ宜イノデハナイカ、然ルニ之ヲ對手トシテ、事情ニ依ッテハ手ヲ握ラムト迄サレタノハドウ云フ理由ニ依ルカ、之ニ對シマシテ政府ハ、事件發生以來、現地解決、不擴大主義デアリマシタガ、ドウモ外交ガ渉ラナイ、ソレデ武力膺懲ト云フコト

ニナツタ、併シナガラ他ノ一面カラハ尙反省
サセルコトニ努力シタノデアアル、特ニ九箇
國條約會議ガ開カレタ際ニ、列國ガ支那ニ
同情シテ、我ニ對シテ干涉ノ氣運ガアリマ
シタガ、支那サヘ反省スレバ手ヲ握ル用意
ガアルト云フコトヲ通告シテ置イタ、其ノ
後「ドイツ」カラ日本側ノ要求ヲ示サレタイ
言テ來マシタノデ、彼ガ防共ノ精神ニ則ッ
テ、其ノ實サヘ示シテ來レバ宜イト云フコ
トヲ答ヘタ、蔣政權ニ對シテ妥協セムトシ
タ事實ハナイ、其ノ後「ドイツ」ノ橋渡シモ
失敗ニ終テア、云フ風ナ聲明ガ出タノデ
アル、外交専門家ヲ民間カラ登用スル考ハ
ナイカ、政府ハ之ニ對シマシテ申シマスノ
ニ、各地ニ於ケル外交官ノ任務ガ段々複雑
多様ニナツテ來タノデ、専門家の外交官ヲ要
スルノデアアル、此ノ點デ外務省ハ尤モ門戶
開放ガ行ハレテ居ル、大使ヤ公使ニモ自
由任用ノ途ガ開カレテ居リマス、如何セ
ン人物ヲ物色スルコトニ寧ロ苦心シテ居
ル情況デアアル、斯ウ云フ答デアリマス、蔣
政權ヲ對手トシナイ以上、統一ノ支那
政權ノ成立ガ必要デアアル、日支經濟提携、
日支合同開發ハ目下如何ナル狀態ニアル
カ、日支思想提携、儒教復興ト云フコトニ
關スル政府ノ所見如何、新政權ノ成立ニハ
相當ノ年月ガ掛ル、軍事行動ト相俟ッテ文
化對策ヲ行ヒ、新政權成立迄ノ間、兩國諒
解ノ付ク限リ鐵道、鑛山等ニ於キマシテ
共存共榮ノ實ヲ擧ゲタイト考ヘテ居ル、支
那ノ文化復興ニハソレノ機關ヲ作りタイ、

日支經濟提携ニハ組織的ナ基礎ヲ作りタイ、
儒教ノ復興モ然ルベキコトデアアル、今後蔣
政權ニ對シテハ武力デ解決ヲ圖ルト共ニ、
一面誤レル政策デ指導サレテ居ル支那民衆
ノ啓蒙スルコトガ必要デアアル、先般「ドイ
ツ」大使ノ仲介デ蔣政權ト我が政府トノ間
ニ和議ガ交渉サレ、其ノ結果蔣政權ヲ對手
ニシナイコトニナツタ、何故ソレ以前ニ蔣
政權ヲ對手ニシタノデアアルカト云フ質問デ
アリマス、方針トシテハ蔣政權ヲ壞滅ニ歸
セシメ、眞ニ日本ト提携シ得ル新政權ノ成
立ヲ助長スルニアル、又列國ノ既存ノ權益
ヲ尊重シ、親善關係ヲ維持スル考デアルト
云フ答デアリマス、北支ノ經濟開發、文化
對策モ必要タガ、此ノ際支那民衆ノ救濟ガ
最モ急ヲ要スルノデアアル、政府ハ之ニ對ス
ル計畫ヲ立テ、實施スベキデアルト考ヘル、
軍部ニハ既ニ宣撫班ガアルガ、軍ノ仕事ト
切離シテ十分ニ救濟スベキデアルト考ヘル
ガ、此ノ點ハドウデアアルカ、北支ノ占據地
域ハ非常ナ水害ヲ被ッテ居リマス、支那民衆
ニ對シテ誠ニ同情ニ堪ヘナイ、彼ニ食糧ヲ
與ヘ、生活必需品ヲ安ク供給シ、又醫療ヲ
施シテ居ル次第デアアル、尙北支新政權ト協
力シテヤリタイト云フ政府ノ答辯デアリマ
ス、次ニ、政府ハ速カニ對支中央機關設置
ノ要アリト思フガ如何、之ヲ内閣直屬トシ
タイ、又新政權ノ顧問トシテ立派ナ人物ヲ
派遣シタイガドウデアアルカ、政府ハ答ヘテ
言フノニ、支那問題處理ノ爲ニ中央機關設
置ノ必要ハ痛感シテ居ル、其ノ組織ノコト

ハ目下研究中デアアル、滿洲ハ特殊ノ地方デ
アル、歷史上カラ見テモ、日本トノ從來ノ
關係カラ見テモ然リ、支那本部トハ同一視
スルコトノ出來ナイ事情ニアル、然ルニ支
那ハ立派ナ外國デアアル、此ノ故ニ外交體系
ノ外ニ對支事務ヲ取扱フ官廳ヲ新ラシク設
ケルコトハ、我が國ニ取ッテ不得策ト考ヘ
ル、事變終了後ハ我が國トノ親善關係モ回
復スル次第デアアル、此ノ場合我が外交系統
カラ對支事務ノ處理ノ機關ヲ引去ルト云フ
コトハ、即チ外交系統ヲ紊ルモノデアリマ
ス、我が國ニ取ッテ不得策デアアル、今東亞省ト
カ對支經濟局ガ別ニ内閣直屬トシテ出來ル
ト云フコトニナレバ、外務省トノ關係ハド
ウナル、大使、領事ノ關係ハドウナル、統
制ガ紊レルト思フガ、此ノ點ハ如何、政府
ノ答ニハ、支那ニ對スル經濟開發其ノ他ニ
關スル中央機關ヲ設ケルコトハ必要ダト云
フコトヲ申シタ、但シ其ノ組織ハ目下研究
中デアアル、此ノ組織ヲ考ヘルニハ、十分御
意思ノアル所ヲ考慮シテ、外交全般ノ統一
性ヲ破ラナイヤウニ注意スルト云フ答辯
デアリマス、次ニ石油ノ質問ガアリマシタ、
石油ノ權益ヲ確保セヨ、北樺太ノ石油、石
炭ノ利權ハ尼港事件撤兵ノ代償トシテ獲得
シタモノデ、「ロシア」ハ飽ク迄之ヲ保護ス
ルト云フコトヲ條約デ保障シテ居ル、然ル
ニ「ロシア」ハ其ノ後人的彈壓ヲ加ヘルコト
甚ダシク、石油事業者八名、石炭關係者デ
二十數名ヲ、理由ナクシテ拘禁シテ居ル、
此ノ救濟ニハ、外交上徹底的ニ爲スベキコ

トハ勿論デアアルガ、國內的ニモ此ノ事業ニ
對シテ、即チ北樺太石油會社ニ輸血ヲスル
必要ガアルト思フガドウデアアルカ、又漁業
條約ヲ一年間延期シタコトニ付テノ所見ハ
如何、政府ハ斷乎タル處置ヲ執ルト云フコ
トデアアルガ、ソレハドウスル積リデアアルカ、
政府ハ答ヘマシタ、以上ノ事實ハ承知シテ
居ル、北樺太ノ利權ハ條約ニ明カニ規定シ
テアルコトモ承知シテ居ル、暫定的ナ漁業
條約ニ付テハ大使館カラ督促シテ居ル、出
來ルダケ速カニ締結ヲスルヤウ促シテ居
ル、邦人ノ逮捕監禁ト云フコトモ近頃ハ稍
改リマシテ、國外追放ノ形式デスルト云フ
話モアルガ、是モ支那事變勃發ノ爲實行シ
テ居ラスヤウデアアル、故意デナイ、又漁夫
ノ領海侵入事件ニ付テハ先方モ直グ了解シ
テ釋放シタ例ガアル、「ロシア」人ハ一般ニ疑
ヒ深イ國民デ、兎角「スパイ」トシテ拘禁ス
ルノデアアル、時ハ要シマスガ、十分ニ解決
ヲスルヤウニ努力ヲスル、北樺太石油會社
經營ノ内部ニ付テハ、所謂輸血ヲスル、石油
ノ試掘期間ガ短イ關係上早ク何等カ對策ヲ
考ヘタイト思ッテ居ル、今後モ大イニ努力シ
マスト云フ答辯デアリマシタ、第三ニ内政、大
臣ノ事務化ノ改善論ガ質問トナツテ出マシタ、
第一、國務大臣ト帝國議會トノ關係、第二、國
務大臣其ノモノノ補強、即チ元老ニ依ル補強、
最近出來タ内閣參議ニ依ル補強等ヲ考ヘナ
ケレバナラス、第三、國務大臣ト樞密院トノ
關係、是ハ頗ル緊密ナモノデアアル、樞密院
ハ憲法第五十六條「樞密顧問ハ樞密院官制ノ

定ムル所ニ依リ 天皇ノ諮詢ニ應ヘ重要ノ國務ヲ審議ス「トアル、デ「重要」ト云フコトニ強調シテ考ヘテ見ナケレバナラス、然ルニ樞密院官制第六條ヲ見ルト、色々ナ諮詢事項ガ列擧サレテアル、其ノ六號ニ次ノ如キコトガ書イテアル、即チ「前諸項ニ掲グルモノノ外臨時ニ諮詢セラレタル事項」トアル、ソレカラ慣例トナツタコトヲ注意スルト、重大ナコトデモ此ノ臨時ニ諮詢セラレタル事項ノ中ニ掲ゲテナイガ爲ニ、諮詢サレナイコトガ起ツテ來タリ、又其ノ中ニ掲ゲテアルガ爲ニ煩瑣ナ小サナコトデモ諮詢サレルトコトノ慣習ガ起ツテ來テ、茲ニ弊害ガ生ジテ來タノデ、政府ハ獨斷ニ傾イテ、面倒ナモノ、重イモノハ寧ロ避ケテ樞密院ニ掛ケナイト云フコトハ是カラ出テ來タノダ、是ガ抑、大イナル間違テアル、各省大臣ト國務大臣トヲ分離スル時ニハ、責任ノナイ大臣ガ出來ル虞ガアル、内閣參議ノ如キモノハ出來マシタガ、是ハ慎重ニ考慮シナケレバナラス、大臣ガ餘リ熱心ノ餘リ事務ニ没頭スルト云フコトハ、大事ト小事トヲ混同スルコトニナル、各省ノ事務ハ大綱ヲ擱ンデ大所高所ヨリ指導スレバ宜イノデアアル、茲ニ初メテ緯々トシテ餘裕ガ出來テ、大事ヲ考ヘルコトガ出來ルト思フ、又議會ヲ通シテ民意ヲ察知スルト云フコトヲ大臣ハ考ヘナケレバナラス、國際的ニ考慮シテ見マスト、軍令軍政ト外交トノ兩者ガ緊密ニ協調スルト云フコトガ最も必要デアルト思フガ、此ノ點ハドウデアルカ、之ニ對シマシ

テハ、今日ノ内閣制度ニハ將來十分研究ヲシタイ、國務大臣自體ノミナラス、樞密院並ニ議會等ノ問題モ大イニ考慮シナケレバナラナイト考ヘルト云フ答辯デアリマシタ、次ニ又官吏ノ事務、技術ノ系統ヲ正シクシテ待遇スルト云フ原則カラ、又行政機關トシテ官廳ノ職務權限ノ筋途ヲ正シクシ、憲法上認メラレタル立法權、司法權、大權ノ筋途ヲ正シクスル爲ニ質問ヲシタイト思フ、元來方々ノ役所ニ委員會ト云フヤウナモノガアルガ、其ノ中ニ官吏ガ多ク入レバ、其ノ結論ハ分リ切ツテ居ル、民間ニ現職ヲ有スル生キ々々シク空氣ヲ委員會ノ委員ニ入レナケレバナラナイ、技術官ハ技術官トシテ待遇ヲ正シクシナケレバナラナイノニ、是ガ色々ト均衡ガ取レテ居ラナイ例ガ澤山アルノハ遺憾デアアル、國家ガ官吏トナルノニハ法律ガ要ルト云フ原則ヲ指示シタ爲ニ、國家試験ニ法律ヲ重ズルヤウニナツテ、其ノ結果ガ即チ法科萬能主義ト云フヤウナモノガ起ツテ來タノデアアル、憲法上司法權ヲ行使スル者ハ裁判官デアアル、司法大臣ハ行政大臣デナケレバナラス、行政權ト司法權トノ見解ニ付テ、豫審判事ト云フモノガアルコトヲ忘レテハイカヌ、檢察權ノ、改正以前ニ先ヅ豫審制度ヲ改正シナケレバナラナイト思フ、今總動員法デ問題ニナツテ居ル立法事項ト委員命令ノ問題ナド、立法事項ヲ無制限ニ命令ニ委任スルコトハ明カニ違法デアアル、委任命令ノ限度ハ憲法自ラ規定シテ居ルノデアアルカラ、其ノ邊ノ御考

ハドウデアアルカ、政府ガ答ヘルノニハ、事務系統ト技術系統ノ關係ヲ明カニスルコトハ結構デアアルト考ヘル、從來技術系統ノ官吏ガ事務系統ノ官吏ニ比シテ昇進ガ遅レテ居ルト云フコトハ事實デアリマスカラ、是大イニ考慮スル、任用令ハ未ダ具體的ノモノニナツテ居リマセヌ、司法權ト行政權ノ限界ニ付テモ、是モ亦十分考慮スル必要ガアル、次ニ此際内政改革即時斷行ガ必要デアアル、地方制度改正、中央、地方稅政ノ改革、地方自治團體ノ選舉ノ改革ヲ速カニ斷行シテハ如何デアルカ、政府ガ答ヘマスニ、地方制度ノ改正ハ全面的ニ再檢討ヲシナケレバナラス、御趣旨ノアル所ハ十分考慮シマス、地方選舉制度ノ改正デ、等級選舉ト云フコトニ付テハ是ハ重大デアリマスカラ、餘程慎重ヲ要スルト云フ答辯デアリマシタ、極端ナル國粹主義ハ左翼ヨリモ危險デアアル、日本臣民タル以上、國體ノ尊嚴ヲ自覺シテ居リマス、併シナガラ其ノ全貌ヲ……國體ト云フコトノ全貌ヲ理論付ケルコトハ頗ル困難デナイカト思フ、國體ノ本義ノ理論付ケ、基礎付ケガ困難デアルノニ、國體ノ本義ニ反スルモノハ即チ共產主義者ナリト云フコトニ考ヘルト云フト、茲ニ色々ノ弊害ガ湧出シテ來ル、帝國憲法ハ統治權行使ノ限度ヲ明カニシテ居ルノデアリマス、然ルニ猥リニ憲法ノ條章ヲ離レ、國體論ヲ爲ス結果、憲法無視ト云フコトニナリ易イ、世ノ中ニ分ツテ理窟ハ通ラナイト云フコトニナルガ、此ノ邊ノ政

府ノ所見如何、又自由主義ハ共產主義ノ溫床デアルト云フガ、極端ナル國家主義ノ方ガ共產主義ニ似タ點ガアルト思フガ、所見如何、政府ガ之ニ對シ、今日國體明徴ノヤカマシイ折柄、國體ノ本義ヲ濫用スル者ガアルノハ事實デアアル、御質問ノ趣旨ハ大體同感デアアル、其ノ外内政ニ付キマシテハ和歌山築港問題等モアリ、其ノ他モアリマシタガ、今日ノ場合省略ヲ致シマス、四、教育、兎角日本人ノ優越感ト云フモノハ外國ニ對シマシテ惡影響ヲ與ヘテ居ル、是ニハ先ヅ日本人ノ教育ガ必要デアアル、小學校ノ教育カラ根本的革新ノ要ガアル、即チ弱小民族ハ之ヲ愛撫シ、傲慢強力ノ民族ニハ徹底的ニ双向フト云フ日本精神ニ即シタ教育ヲ爲サナケレバナラスト思フガ、文相ノ所見如何、之ニ對シ、支那、滿洲デ誤レル優越感ヲ持ツ者ガナイトハ言ヘナイ、之ヲ匡正スル必要ガアル、教育ニモ若干其ノ原因ノアルコトハ認メテ居ル、次ノ質問ハ、文部大臣ガ厚生大臣ヲ兼ネルコトハ、重大ナル教育革新ノ叫バレル今日ニ當ツテ、餘リ宜クナイコトト考ヘルガ如何、之ニ對シテハ、一日モ早く專任大臣ヲ置カレムコトヲ希望シテ居ルト云フ答辯デアリマシタ、次ニ武

道精神ノ發揚ハ、軍隊精神上ノミナラス、國民教育上頗ル必要デアアル、量的ニ申セバ先ヅ武道ヲモット一般化スル必要ガアル、質ノ上カラ申セバ武道ノ高等ナル學校ヲ起ス必要ガアル、武道審議會ト云フモノヲ設置スベシト思フガドウデアアルカ、武道ノ再興

ニハ同感デア、現在中學校デハ正科ニナツテ居リマス、指導者養成ニ付テハ從來ノ施設十分トハ思ハレヌガ、是ハ十分努力スル、武道審議會ノコトハ研究ノ上實現シタイト思フト云フ答辯、次ニ、我が國ノ國語教育ハ、眼即チ視覚ニ依ル教授ガ重ク視ラレテ來タノデアリマス、其ノ結果偏傾的ナ記憶注入主義トナツテ、其ノ弊害ノ爲ニ、我が文化ガ如何バカリ障得ヲ受ケタカ知ラナイ、音聲學の方面ヲ大ニ補フ所ノ國語教育ト云フモノガ今日必要デアルト思フガ、此ノ點ハ如何デア、國語教育ガ視覚ニ偏セルコト、發音ヲ閉却シテ居ルコトハ同感デア、十分調査ヲ遂ゲタ上デ、適當ナ解決ヲ圖リタイ、第五、國防、即チ陸海軍ノ方面デアリマス、我が航空ハ遞信省ノ直轄ト、陸海軍ノモノトガアル、國防上カラ大ニ考慮ヲ要スルモノガアル、最近防空法モ出來タ、研究設備モ大ニ進歩ハシマシタガ、モット軍ハ積極的ニ此ノ事業ニ當ラナケレバナラナイ、豫算モ相當アルガ、専ラ國防ト都市ノ防備トニ連絡ヲ取ツテ貫ヒタイ、又民間航空機ノ利用程度モ十分ニヤツテ貫ヒタイト思フガ、政府ノ所見ハ如何、防空ニハ陸海軍、内務省トガ能ク協調シテ非常ノ際ニ當テ居リマス、民間航空ニ付テハ遞信省ト十分ノ連絡ヲ取ツテ實施シタイト思フ、防空ノ重點ハ敵機ノ主力ヲ求メテ之ヲ擊破スルコト、政府ハ航空兵力ノ増強ヲ目標トシテ、今度ノ豫算ニ計上シテ置イタ、海軍ノ

使命ハ艦隊作戰ニア、故ニ航空モ亦艦隊作戰ニ協力スベキモノデア、日本ノ國土ニ近キ敵機ヲ擊破シ、之ヲ近寄ラシメナイト云フ所ニ重點ヲ置キタイト思フ、此ノ際運相ヨリモ航空機製作ト地方乘員、中央乘員養成所ニ付テ詳細ノ答辯ガアリマシタ、次ニハ、我が國ニモ持久戰ノ覺悟ガアル、今日支那ガ持久戰ヲ爲シ得ルモノハ其ノ背景アルガ爲デア、我モ總動員ニ依ッテ歩一歩進んで行クベキニ、豫算面ニハ餘リ數字ガ現レテ居ラナイノハドウデア、之ニ對シマシテ、今年度ノ海軍豫算ノ如キハ、臨時軍事費ノ中ニ入ッテ居リマスカラ一見貧弱ノ感ガアル、尙戰爭ニ必要ナモノハドソノ要求スルト云フ答辯デアリマス、今回關東軍ノ外ニ北支軍、中支軍ト云フモノガアル、此ノ相互關係ニ付キマシテ、陸相ノ對滿事務局長總裁トシテノ抱負如何、答、北支、中支ノ經濟發展ヲ補助スルト云フコトニ重點ガアル、北支中支ニテ經濟的特色ヲ十分ニ利用スル、又日滿經濟ノ方デハ、期待スルコトノ出來ナイ經濟方面ヲ發展サセマシテ、資本關係モ支障ナキヤウニ努力シテ行キタイト云フ答辯デアリマス、六、司法、神奈川縣放火事件、帝人事件ト云フヤウナモノハ多數ノ被疑者ヲ取調べルニ際シテ、僅カ數名ノ檢事ガ之ニ當ツタ、要スルニ人員ノ不足カラ事件ハ發生タシト云フガ、帝人事件ノ某氏ノ歎願書ノ問題ノ如キ、左様ナコトガ原因デア、檢事ノ手不足ガ原因デア、此ノ歎願書ハ決シテ某氏ガ自發的ニ書イタモノデナイコ

トハ明カデア、檢事ガ書カシタノデア、檢事ノ方デハ其ノ内容ヲ元々初メカラ信用シナイデ居ルモノデア、書カシタケデ、後ハ取調べモシナイ、處ガ内閣デア、物的證據ガナケレバ責任ヲ取ルコトガ出來ナイト云フコトデア、恰モ此ノ時此ノ書面ガ出タト云フコト、岩村檢事正カラ小山法相ニ差出シマシテ、小山法相ハ齋藤首相ナリ高橋藏相ニ之ヲ報告シタ、其ノ結果齋藤内閣總辭職ト云フコトヲ促シタノデア、ガカラ此ノ書面ハ唯倒閣ノ目的ハ達シタノデア、帝人事件其ノモノノ取調ノ上ニハ寸毫モ役ニ立ッテ居リマセヌ、此ノ事實ハ檢事ノ手不足デヤツタ譯デア、ハナイコトハ明カデア、檢察當局ガ故意ナラバ申スニ及バズ、徒ニ信ジモシナイコトヲ態々書カセテ上司ニ差出シタ理由ハ何處ニアルカ、是ハ犯罪ノ證據ニナツタトカ、ナラストカ云フ關係ヨリモ、モットノ大キナ關係ニ於テ大臣トシテ取調べナケレバナラスト考ヘル、下院ニ於テ、衆議院ニ於テ法相ガソレ以上ノコトハ犯罪ニ關係ガナイコトデア、アルカラ取調べテ居ラストノ答辯ハ甚ダ了解ニ苦シムガ如何ナル御考デア居ラレカト云フ御質問ガアリマシタ、之ニ對シマシテ、檢事ノ手不足ハ種々ノ原因ノ一ツデア、アルト云フコトハ一般的話デア、尙歎願書ノコトニ付テハ、斯カル搜查ノ際ニ出來タ書面ハ調査ニ添付スル必要ハナイノデ、其ノ儘ニシテ居ッタト云フノ過ギナイ、次ニ、三土氏ノ證言ガ唯某男ノ言フコトト異ルト言フダケデア

證罪ニ問フトハ、何ヲ標準トシテ虛偽ト斷定シタノデア、之ニ對シマシテハ、元來證人トナルベキモノヲ被告人ニ面會サセルコトハ、普通避クベキコトデア、法トシテハ禁止シテ居ラナイ、而モ豫審判事ノ許可ノ下ニ檢事立會ノ上デ、事件ノ話ニハ立チ入ラナイト云フ條件デヤラシタモデアリマス、是ハ決シテ不法トハ考ヘナイト云フ答辯デアリマス、商工省ノ問題、日本製鐵株式會社デア、咸鏡北道ト茂山ニ製鐵工場ヲ造ルト云フコトヲ聞イテ居ルガ、其ノ進捗ノ程度如何、近時鐵礦飢ト云フガ、十三年カラ十六年ヘノ鐵ノ需給關係ハ如何ナルモノデア、聽キタイモノデア、答、茂山ノ埋藏量ハ相當アル、會社ハ敷地ヲ買入レマシテ目下測量ヲ終ツタ所デアリマス、十三年度乃至十六年度迄ノ需給關係ハ申上ゲルコトハ出來ナイガ、ドウカ此ノ點ハ御安心ヲ乞フ、又尺貫法ニ付テノ質問ガ出マシタ、之ニ對シマシテハ、尺貫法併用ノ趣旨ヲ法律ニ現ス方法ニ付テ研究申デア、是ガ出來次第今議會ニデモ提出シタイト思、テ居ル、植民地、即チ拓務ノ問題デアリマス、移民ガ自由ニ出來ルノハ「ブラジル」ト滿洲ダケダ、二十箇年百萬戸、即チ五百萬人移住ノ計畫ノ此ノ數字ハ何處カラ生ミ出シタノデア、滿洲移民ヘノ非難ハ一、治安維持、二、生産ノ不適當、三、日本人ハ滿人ト競争スルコトガ出來ナイ、此ノ三點デア、之ヲ如何ニ克服スルカ、政府ノ答ハ、二十箇年百萬戸ト云フ

コトハ机上ノ空論デハナイ、滿洲ニ於ケル統治上ノ計算カラ來タノデアアル、五族協和ノ精神カラモ來タノデアアル、一割以上ノ日本人ガ滿洲デ指導者トシテ居ルコトガ必要デアアル、即チ滿洲ノ人口ハ總テ五千萬人トナルト云フ見地カラ二十箇年百萬戸、即チ五百萬人ハ一割ニ當テ居ル、即チ此ノ趣旨カラ生レタノデアアル、尙移住計畫遂行上ノ諸問題、移民ト金融ノ問題ニ付テ詳細ナル御答辯ガアリマシタ、樺太ヲ内務省ノ管轄ニ讓ツテ、拓務省ハ宜シク今日大事ナ、海外發展ノ方ニ專念シテハドウデアアルカ、之ニ對シマシテハ、樺太ハ未ダ十分ニ開發サレテ居リマセヌ、此ノ故ニ今直チニ内務省ニ讓ルコトハ困難デアアルガ、併シ將來ハ左様ニ考ヘル、其ノ他拓務ニ付テ問題ガアリマシタガ、是ハ省略ヲ致シマス、二月二十四日ヨリ三月二日迄ニ互リマシテ各分科會ヲ開催致シマシタ、三月三日再ビ總會ヲ開キマシテ、各分科主査ヨリ報告ガアリマシタ、ソレヨリ再ビ質問ニ入りマシテ、三月四日討論ニ入りマシタ、一委員ヨリ次ノ如ク贊成意見ガ出マシタ、此ノ豫算案全部ニ贊成ヲスル、此ノ大豫算ヲ有效適切ニ活用スルノニハ、各省中ニ分立シテ個々ニ存在スル一部ノ經濟的強化ト、各省ノ連絡ダケデハ到底萬全ヲ期スルコトハ出來ナイ、茲ニ此ノ方面ノ首尾脈絡ヲ一貫シタ經濟省ト云フモノヲ新設スルコトハ、目下急務中ノ急務デアアルト思フ、此ノ際政府ハ我方國戰時經濟ノ參謀本部ヲ作ッテ、其ノ存

在ヲ全國民ニ了解セシメ、以テ其ノ適從ヲ誤ラシメヌヤウ善處スル義務アリト信ズルノデアアル、茲ニ經濟省ヲ設ケ、我方經濟行政ノ全機關ヲ集中シ、政府自カラ進ンデ經濟行政上ノ責任ヲ負フベキデアアル、勿論日滿支ノ全面的經濟行政ノ中樞機關タラシメ、特ニ北支、中支經濟發展ノ爲ニハ、國防、重要産業ノ特殊ナルモノヲ除イテハ、門戸開放、機會均等ノ精神ニ則ッテ善處セラレムコトヲ望ムノデアアル、此ノ重要ナル希望ヲ述ベテ、政府ノ慎重ナル考慮ヲ煩シ、サウシテ此ノ豫算案全部ニ贊成スル者デアアルト云フ意見デアリマス、又他ノ一委員ヨリモ贊成意見ガ出マシタ、支那事變ハ更ニ長期ニ互ル覺悟ヲ以テ總豫算ガ計上サレテ居ル、戰爭ガ長期ニ繼續スルモ、我が國防ノ上ニ何等危惧ナイコトト確信シマス、軍事以外ノ豫算ニ付テハ不満足ノ點ナキニアラザルモ、大局ノ見地ヨリ小局ノ問題ハ忍ブベキモノト思フ、故ニ無修正デ贊成ヲスル、此ノ龐大ナル豫算ヲ政府ニ一任スル以上ハ、政府モ篤ト考慮スベキコトガアル、豫算ニ關スル貴族院、衆議院ノ言論中ニハ、實ニ傾聽ニ値スベキモノガ多ク、政府ハ本豫算ヲ實行スル上ニ於テ、一段ノ勇氣ト慎重ナル注意ヲ以テシ、之ヲ有效適切ニ處理シテ誤リナキヤウ念願スルト云フ意見デアリマス、斯クシテ採決ニ入りマシテ、豫算案全部、原案通り滿場一致可決ニ相成リマシタ、右ニテ報告ヲ終リマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 是ヨリ討論ニ移リマス、通告順ニ依リマシテ發言ヲ許シマス、渡邊千冬君

(子爵渡邊千冬君演壇ニ登ル)

○子爵渡邊千冬君 私ハ只今議題トナッテ居リマス各豫算案ニ對シ、贊成ノ意ヲ表シタイト存ジマス、抑、我々ガ豫算ニ對スル態度ヲ決セムトスル時ニハ、先ヅ周圍ノ情況竝ニ其ノ豫算ノ目的ヲ檢討致サナケレバナライト存ジマス、豫算ハ手段デアッテ、目的デハナイノデアアリマスカラ、豫算ノ價値ハ其ノ内の技巧ニ存セスシテ、外的關係ニ依ッテ決定セラレナケレバナラヌト存ジマス、而シテ本豫算案ハ支那事變下ニ編成セラレマシタ所ノ、文字通りノ非常時豫算デアリマス、非常時豫算ニ對シマシテハ、我々ノ態度モ亦平時豫算ニ對スルモノトハ自ラ異ル所ガアルベキデアリマス、私ハ嘗テ高橋財政ニ贊意ヲ表シ、又藤井財政ニ對シテモ贊成ヲ致シタノデアリマス、而シテ高橋、藤井財政ニ於ケル財政經濟ノ政策ト、今日賀屋大藏大臣ニ依ッテ執ラレテ居リマス所ノ政策トハ、相當方向ヲ異ニスル所ノモノガアルノデアリマス、即チ當時ニ於テハ、所謂健全財政主義ガ唱ヘラレテ居ッタノデアリマス、昔ノ財政教科書ニハ、國家財政ノ原則ハ、出ヅルヲ計ッテ入ルヲ制スト申シテ居リマスガ、國家ノ經費ト雖モ不要不急ノモノハ一錢一厘タリトモ之ヲ認ムベキデアリコトハ申ス迄モアリマセヌ、又公債財源主義ノ歡迎スベカラザルコトモ當然デアリマス、是レ當時ニ於テ高橋、藤

井兩氏等ノ政策ガ當ヲ得タモノデアッタ所以デアリマス、私ハ今日ニ於キマシテモ、何人ト雖モ主義トシテ健全財政主義ヲ指彈スルコトハ許サレナイモノト考ヘマス、唯問題ハ實際ニ於ケル可能不可能ニ繫ルノデアリマス、言葉ヲ換ヘテ言ヘバ、健全財政主義ヲ懷イテ居ル者ニシテ、初メテ非常時財政ノ衝ニ當ルノ資格ガアルト信ズルノデアリマス、然ルニ十三年度豫算ニ於ケル大部分ノ出費ハ、目前ノ事變ニ對處スベキ絶對的ニ必要ナル經費デアリマス、即チ今日ニ於テハ出ヅルヲ計ッテ入ルヲ制スノ原則ハ、其ノ儘掛値ナシニ適用セラレナケレバナライ時期ニアルノデアリマス、國家ノ實情ヨリ申シマシテ、今日ノ豫算編成ノ方針トシマシテハ、眼前ノ時局ノ打開ノ爲ニ眞ニ必要ナル限り、如何ニ龐大ナル經費ト雖モ之ヲ計上シナケレバナリマセヌ、要ハ唯之ニ依ッテ生ズベキ各種ノ惡影響ヲ排除シ、銃後ニ於ケル國民經濟ノ混亂ヲ防止スベク、周到ナル用意ヲ爲サナケレバナライコトニ繫テ存スルノデアリマス、私ハ現内閣ガ此ノ點ニ付テ勦カラザル努力ヲシテ居ラル、コトヲ認メテ、又之ヲ多トスル者デアリマス、是レ私ガ豫算案全部ニ贊成ヲ致ス所以デアリマス、私ハ此ノ機會ニ於キマシテ、本豫算案ニ關聯シテ二三ノ希望ヲ申述ベテ見タイト思フノデアリマス、其ノ第一ハ豫算ノ施行ニ當テ放漫ニ流レザルヤウ、遺憾ナキヲ期シテ載キタイト云フコトデアリマス、今日議題トナッテ居リ

マス所ノ昭和十三年度豫算ノ總額ハ、二十八億六千七百餘萬圓デアリマス、之ニ別途政府ヨリ提出ニナツテ居リマス所ノ、臨時軍事費特別會計ノ追加額四十八億五千萬圓ヲ加ヘマスレバ、七十七億圓以上トナルノデアリマス、此ノ外ニ各特別會計ノ豫算ガアリ、又追ッテハ十三年度ノ追加豫算ノ提出モアルノデアリマス、今ヤ斯クノ如キ厖大ナル支出權ガ政府ニ與ヘラレムトシテ居ルノデアリマス、私ハ先ニ申述ベマシタ如ク、目下ノ時局ニ於テハ豫算ノ數字ノ厖大ナルコトヲ以テ、直チニ非難致スモノデアリナイノデアリマス、併シナガラ私ハ豫算ガ厖大ナルガ故ニ、其ノ實行ニ際シテハ、政府ハ一層慎重デアツテ載キタイト思フノデアリマス、何人デモ金ガ紙入ノ中ニ澤山アル時ハ濫費ヲ爲シ勝チデアルト同様、厖大ナル支出權ヲ得テ政府ハ、動モスレバ放漫ニナリ勝チナモノデアリマス、勿論政府ノ支出ニ付テハ豫算上ノ制限ガアリマス、併シナガラ非常時ノ豫算ハ平時ニ比シテ政府ノ自由ニ委サレテ居ル點ガ多イノデアリマス、英國ハ世界大戰ノ時、軍事費ヲ「ヴォート・オブ・クレヂット」、即チ信用勘定ト云フ名ノ下ニ議會ノ協賛ヲ得テデアリマス、即チ實行上ノ細目ハ舉ゲテ之ヲ政府ニ委ネ、國民ハ之ヲ信用スルト云フ考デアツタラウト思ヒマス、今日我々ガ此ノ非常時豫算案ニ贊成スルニ付キマシテモ、我々ハ之ヲ一種ノ信用勘定トシテ贊成致スノデアリマス、從テ政府ニ於カレマシテハ、此ノ國民ノ信仰

ニ背カザルヤウ十分ナル留意ヲセラル、必要ガアルト思フノデアリマス、厖大ナル豫算案デアアルガ故ニ、尙更無駄ノナキヤウニ致サネバナリマセヌ、又同ジ金ヲ使フニモ、如何ニスレバ最モ效果的デアアルカノ配意ヲ怠ツテハナリマセヌ、斯ウ云フ點ニ付キマシテ出來得ベクンバ、政府ハ特別ナル調査機關ヲ設ケテ、豫算運用ノ適正ヲ期セラレタイト存ズルノデアリマス、第二ハ物價ノ問題デアリマス、厖大豫算ノ實施ニ伴フ物價騰貴ハ、今日總テノ人々ガ最モ懸念シテ居ル所デアリマス、賀屋大藏大臣ノ御説明ニ依レバ、一方ニ於テ金ト物トノ調整方適當ニ行ハレ、他方ニ於テ爲替相場ノ安定ニ依リ、通貨ノ信用ガ維持セララル、限り、物價暴騰ノ懸念ハナイト云フコトデアリマス、併シナガラ今最近ニ於ケル物價ノ趨勢ヲ見マスルト、昭和十二年ノ平均卸賣物價指數ハ、日本銀行ノ調査ニ依レバ、其ノ前年タル昭和十一年ノ平均指數ニ比シテ二割以上ノ騰貴ヲ示シテ居リマス、又本年一月ノ指數ハ昨年ノ平均指數ニ比シテ三分程上ツテ居リマス、私ハ政府ノ財政理論方誤テ居ルトハ思ヒマセヌ、併シナガラ物價ハ現實ニ上ツテ居ルノデアリマス、今日迄ノ所ハ幸ニシテ未ダ經濟生活ヲ破壊スルヤウナ暴騰ヲ示シテハ居リマセヌ、併シナガラ今後厖大豫算ノ施行ニ依リ通貨ノ膨脹、輸入制限ニ依ル物資ノ缺乏、増稅ノ實施ニ依ル生産費ノ昂上等ニ依ツテ、物價騰貴ノ傾向ハ一層拍車ヲ掛ケラレルト思フノデアリマス、

茲ニ於テ私ハ物價騰貴ノ抑制ニ付テ、政府ハ一層效果的ナル政策ヲ執ラレムコトヲ希望シテ已マナイノデアリマス、「ドイツ」デハ開戰勿々千九百十四年八月四日、最高價格ニ關スル法律ヲ制定シ、又同時ニ戰爭勃發後僅カニ一週間ニシテ各地ニ於ケル最高小賣相場ヲ決定セシメタノデアリマス、抑、物價ハ國民生活ニ最モ緊密重要ナル關係ヲ有シテ居ルコトハ申ス迄モアリマセヌ、若シ物價ヲ御馳走ニ警ヘマスナラバ、百ノ經濟理論ハ一般大衆ノ眼ニハ御馳走ヲ盛ル皿小鉢ノ類ニ過ギナイノデアリマス、物價ヲ調節スル力ナキ政治家、専門家、學者等ノ經濟理論ハ國民大衆ノ飢ヲ凌グ爲ニハ沒交渉デアリマス、各種ノ經濟統制ヲ行ヒナガラ物價統制ヲ忘レテ居ル政治ハ、畫龍點睛ヲ缺クモノト言ハナケレバナリマセヌ、統制ハ常ニ困難ヲ伴フモノデアリマスガ、物價ノ統制ハ困難ノ程度ガ他ノ統制ヨリモ一層大ナルモノガアルノデアリマス、而モ既ニ騰貴シタル物價ヲ低下セシムルノ困難ハ、未ダ騰貴セザルニ先ダツテ之ヲ抑制スルヨリモ、尙又一層大ナルモノガアルノデアリマス、是レ「ドイツ」ニ於テ開戰後、直チニ物價ノ統制ヲ試ミタ所以デアラウト思フノデアリマス、然ルニ我々國ニ於テハ各種ノ經濟統制方順次實施セラレルニ拘ラズ、物價統制ノミ今日ニ至ル迄尙等閑ニ附セラレテ居ルヤウニ感ゼラレルノハ誠ニ遺憾ニ存ジマス、消費階級ニアル國民ハ重稅ノ苦痛ヲ甘受シテ居ルノニ、生産者ハ總テノ増稅、新稅、生

産費ノ増加等ヲ需要者ニ轉嫁スルノミナラズ、總テノ機會ヲ捉ヘテ必要以上ノ價格引上ヲ行ハムトスル傾向ガアリマス、私ハ政府ハ一方軍需品製造者ノ暴利ヲ嚴重ニ取締ルト共ニ、他方一日モ速カニ物價ノ統制、殊ニ生活必需品ノ價格ノ統制ヲ行ハレムコトヲ熱望致ス者デアリマス、私ハ是ガ軍國ニ於ケル政府者ノ重大ナル義務ト信ズルノデアリマス、尙一二此ノ問題ニ付テ附加ヘタイト存ジマス、其ノ一ハ、物價ノ統制ハ地方的ニ別々ニ統制致スコトハ、却テ市場ヲ混亂セシムル結果ヲ來スコトデアリマシテ、「ドイツ」ニ於テモ先ニ述ベタル法律制定後一箇月ニシテ新ラシイ布告ヲ出シマシテ、單一官廳ヲ於テ物價統制ヲ致スコトニ改メタノデアリマス、尙又狙ヒ打的ニボツリト物價ノ統制ヲ致シマス時ハ、他ノ商品トノ關係ニ於テ不公正、又ハ片手落ニナリ易イノデアリマスカラ、此ノ點モ細密ナル注意ヲ要スルノデアリマス、今手近ノ一二ノ例ニ付テ申述ベテ見マス、一昨五日ノ新聞紙ニハ、商工省ハ「ピール」ノ小賣相場ノ統制ニ力ヲ致シテ居ルト云フ記事ガアリマシタガ、昨六日ノ新聞紙ニ登載セラレテ居リマス商工省ノ發表ニ依レバ、二月十六日現在ニ於テハ小賣物價指數ハ前月ニ比シ、百分ノ三・二ノ騰貴ヲ示シ、殊ニ「ピール」ヨリモ尙一層生活ニ直接ノ關係アル晒木綿ノ如キハ、前月ニ比シ、實ニ百分ノ四十六ト云フ大暴騰ヲ示シテ居ルノデアリマス、又政府ガ其ノ使用ヲ強制シテ居リマス所ノ

「ステープル・ファイバー」ハ、一昨五日百
「ボンド」ニ付キ三圓ノ騰貴、割合ヨリ申シ
マス平均百分ノ三・四程ノ暴騰ヲ致シテ
居ルノデアリマス、政府ハ木綿織物ニ「ス
テープル・ファイバー」ノ混用ヲ強制スル時ニ
ハ、ソレト同時ニ純木綿ノ製品及「ステー
プル・ファイバー」ノ騰貴ヲ爲スコトハ當然
考慮ノ中ニ置カナケレバナラナカッタコト
ト思フノデアリマス、政府ハ果シテ是等ノ
コトヲ豫期セラレナカッタノデアリマスカ、
又ハ豫期シテモ手ヲ著ケナカッタノデアリ
マスカ、「ドイツ」ニ於テハ純毛ノ毛絲ノ産
出ヲ禁止「ステープル・ファイバー」ヲ、「ド
イツ」語デ「ツェルローゼ・ウオルレ」即チ植
物纖維質羊毛ト申シテ居リマスガ、「ツェル
ローゼ・ウオルレ」ノ混用ヲ命ズルト同時
ニ、在來ノ市場ニ存在シテ純毛ノ毛絲ノ價
格ヲ其ノ爲メ騰貴セシムルコトヲ絕對ニ取
締ツテ居ッタト云フコトハ、私ノ直接ニ目撃
致シタ所デアリマス、即チ物價統制ニ當ッテ
ハ、全體のナル方針ニ基キ、周密ナル計畫
ヲ立ツルコトガ最モ緊要デアリマス、是ハ
單ニ物價統制ノミニ關スル問題デハナイノ
デアリマシテ、全體的ニシテ周密ナル計畫
ニ基カザル統制ハ、一部ノ不正ヲ追ヒ遺ッテ
他ノ不正ヲ迎ヘルニ過ギナイノデアリマス、
斯クノ如キハ徒ニ手續ノ煩瑣ヲ生ジ混亂ヲ
醸スノミデアリマス、又是ハ申ス迄モナイ
コトデアリマスガ、統制國「ドイツ」ノ經濟
相デアッタ「シャハト」氏スラ、産業ヲ發達セ
シムルニハ自由競争ヲ原則トシ、統制經濟

ハ特別ノ場合ニ於ケル便宜の措置デアルト
申シテ居ルノデアリマス、又或經濟學者ハ、
官吏ガ民間ノ實業家ニ比シ薄給ニ甘シテ
居ルノハ、國家ノ權力ヲ振り廻スコトノ快
樂ニ陶醉シテ居ルカラデアルト申シテ居ル
ノデアリマスガ、此ノ皮肉ナル言葉ノ中ニ
ハ、確ニ多少ノ眞理ガ存スルモノト存ジマ
ス、現政府ガ統制諸策ノ實施ヲ爲スニ當
リ、是等ノ諸點ニ付キマシテモ亦當該官廳
ニ於テ、殊ニ留意アラムコトヲ希望致ス次
第デアリマス、第三ハ對支政策ニ關スル希
望デアリマス、對支政策ニ關シマシテハ、
近衛首相初メ政府當局者ヨリ段々ト御説明
ガアリ、又議員各位カラ種々有益ナル意見
ガ開陳セラレタノデアリマスガ、私ハ對支
政策ノ根本ハ我が國民ノ正シキ對支觀念ノ
育成ニ在リト信ズルノデアリマス、最近ニ
於ケル我が國ノ情況ハ、之ヲ例フレバ從來
一定ノ目數ノ基盤ニ向ッテ居ッタノガ、急ニ
目數ガ倍モ三倍モアル基盤ニ面シタヤウナ
モノデアリマス、急ニ舞臺ガ廣クナッタノ
デアリマス、此ノ大キナ基盤ノ上ニ於テハ
從來ノ定石ハ役ニ立チマセヌ、更ニ雄大ナ
ル布石ヲ必要ト致スノデアリマス、政府ハ
此ノ新ラシイ舞臺ニ立ッテ、我が國民ニ新ラ
シキ定石ヲ示ス必要ガアルト存ズルノデア
リマス、皇國ノ東亞ニ於ケル大使命ヲ思フ
時ハ、我等ハ高遠ナル理想ヲ要求致シマス、
我が國民ノ拂ヒタル生命財產ノ犠牲ノ如何
ニ大ナルカラ思フ時、我等ハ遺漏ナキ打算
ヲ要求スルノデアリマス、支那ニ於ケル列

國ノ錯綜シタル利害關係ヲ思フ時、我等
ハ賢明ナル常識ヲ要求セザルヲ得ナイノデ
アリマス、對支政策ニ關シテ今日迄政府ノ
行ッテ來ラレマシタ所ハ、應急ノ措置タルヲ
出デナイノデアリマス、是ハ已ムヲ得ヌ所
デアッタト存ジマス、併シナガラ今後ハ新ラ
シイ對支政策ヲ樹立スベキ建設時代デアリ
マス、抽象的ナル日支親善、日支提携ノ議
論ハ何人モ聞キ飽イテ居ルノデアリマス、
具體的ニシテ實行的ナル對支政策ノ樹立ハ
誠ニ容易デハアリマセヌ、又今日國民ノ考
ヘ方モ區々ニ互ッテ居リマス、此ノ點ニ關シ
テ政府ハ國民ヲシテ、新タナル事態ニ處ス
ル途ヲ知ラシムルヤウニ、萬全ノ努力ヲ致
サレムコトヲ希望スル次第デアリマス、最
後ニ私ハ現内閣ノ根本的指導原理ヲ明カニ
シテ戴キタイト思フノデアリマス、近時國
内萬般ノ事項ニ互ッテ革新ガ叫バレテ居ル
ノデアリマス、現内閣モ亦革新政策ノ遂行
ヲ聲明シテ居ラレルノデアリマス、近衛首
相ハ革新政策ノ遂行上、多少ノ摩擦ヲ生ズ
ルコトハ當然デアアル、此ノ政策實現ノ爲ニ
當然生ズルコトアルベキ摩擦ハ斷ジテ之ヲ
回避セズト言ハレマシタ、併シナガラ又一
方ニ於テ無用不必要ナル摩擦相剋ハ、之ヲ
解消セシメムトスルノデアルトモ言ッテ居
ラレルノデアリマス、然ラバ何ガ無用ナル
摩擦、不必要ナル相剋デアリ、何ガ回避ス
ルコトヲ要セザル摩擦相剋デアルカ、此ノ
點ガ明カデナイノデアリマス、私ハ革新ガ
惡イトハ決シテ申シマセヌ、併シナガラ現

狀ノ變更ガ總テ革新デハナイノデアリマス、
革新ニハ一貫シテ指導原理ヲ必要トスルノ
デアリマス、其ノ指導原理ニ付テ國民ガ十
分ナル理解ヲナスナラバ、思切ッテ革新政策
モ圓滑ニ行ハレルノデアリマス、背後ニ如
何ナル指導原理ヲ藏シテ居ルカヲ明カニセ
ズシテ、革新ヲ唱フルハ國民ニ徒ニ不安ヲ
與フル結果トナリマス、世界各國ニ於ケル
成功セル革新政策ノ背後ニハ、必ズ一貫シ
タ思想體系ガアリ、指導原理ガアルノデア
リマス、非常時局ニ於テ國民ハ一應緊張ス
ルノハ當然デアリマス、併シナガラ難局ガ
長期ニ互ル場合ニ於テハ、動モスレバ懷疑
的、頹廢的乃至自棄的ナル思想ガ起リ勝チ
デアリマス、此ノ時期コソハ緊張セル第一
期ヨリモ遙カニ大ナル危機デアリマス、此
ノ際ニ國民ヲ誤ラシメザル爲ニハ、單純ナ
ル表面的訓示デハ何ノ役ニモ立チナイノデ
アリマス、深い思想的根柢ノ上ニ打チ立テ
ラレタ指導原理ガナケレバナラナイノデア
リマス、私ハ近衛總理大臣ガ此ノ重大時局
ヲ擔任セラレテ、日夜肝膽ヲ碎イテ居ラレ
ルコトニ對シ、深ク敬意ヲ表スル者デアリ
マス、唯以上申述ベマシタ種々ノ希望ニ付
テ、十分考慮ヲ拂ハレムコトヲ望ミマシテ、
茲ニ私ノ豫算案贊成ノ演說ヲ終リタイト存
ジマス(拍手)
○議長(伯爵松平賴壽君) 是ニテ討論ハ終
リマシタ、是ヨリ採決ヲ致シマス、御異議ガ
ナケレバ兩案全部ヲ問題ニ供シマス、兩案
全部ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ願ヒマス

(議員起立)

○議長(伯爵松平頼壽君) 全會一致ト認メマス

○議長(伯爵松平頼壽君) 日程第三、重要

礦物増産法案 日程第四、日本産金振興株式會社法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、是等ノ二案ヲ一括シテ議題トスルコトニ御異議ハアリマセスカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナシト認メマス、吉野商工大臣

〔左ノ送付文及法律案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ倣フ〕

重要礦物増産法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十三年三月四日

衆議院議長 小山 松壽
貴族院議長 伯爵松平頼壽殿

重要礦物増産法案

重要礦物増産法

第一條 本法ニ於テ重要礦物トハ金、銀、銅、鉛、錫、安質母、鎳、水銀、亞鉛、鐵、硫化鐵、格魯、滿、重石、水鉛、魯、滿、鐵、滿、重石、水鉛、ニッケル、コバルト、石炭、亞炭、硫黃、砂金、砂鐵、砂錫其ノ他勅令ヲ以テ指定スル礦物ヲ謂フ

本法ニ於テ礦業權者トハ砂鑛權者ヲ、鑛業權トハ砂鑛權ヲ、鑛區トハ砂鑛區ヲ含ム

第二條 政府重要礦物ノ増産ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ重要礦物ヲ目的トスル鑛業權者ヲシテ事業計畫ヲ定メ

之ヲ届出ツベキコトヲ命ズルコトヲ得 鑛業權者前項ノ命令ニ依リ届出デタル

事業計畫ヲ變更セントスルトキハ之ヲ政府ニ届出ツベシ

政府必要アリト認ムルトキハ前二項ノ事業計畫ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第三條 政府重要礦物ノ増産ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ重要礦物ヲ目的

トスル鑛業權者ニ對シ事業ニ著手シ又ハ事業ヲ繼續スベキコトヲ命ズルコト

ヲ得

第四條 重要礦物ノ増産ヲ圖ラントスル者ハ之ガ爲必要トスル鑛業權ノ讓渡又

ハ隣接鑛區トノ間ノ鑛區ノ増減ニ付當該鑛業權者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依

リ協議ヲ爲スコトヲ得

前項ノ協議ヲ爲スコト能ハズ又ハ協議調ハザルトキハ重要礦物ノ増産ヲ圖ラ

ントスル者ハ當該事項ニ付政府ノ裁定ヲ申請スルコトヲ得

第五條 政府重要礦物ノ増産ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ鑛業權ノ讓渡又

ハ隣接鑛區トノ間ノ鑛區ノ増減ニ付當該鑛業權者ニ對シ重要礦物ノ増産ヲ圖

命ズルコトヲ得

鑛業權者前項ノ協議ヲ爲サズ若ハ爲スコト能ハズ又ハ協議調ハザルトキハ政府ハ當該事項ニ付必要ナル決定ヲ爲スコトヲ得

第六條 第四條第二項ノ規定ニ依リ申請アリタルトキ又ハ前條第一項ノ規定ニ

依ル命令アリタルトキハ當該鑛業權者ハ其ノ申請ヲ拒否スル旨ノ裁定アル迄

又ハ第十條第二項ノ規定ニ依リ裁定若ハ決定ガ其ノ效力ヲ失フ時期迄當該鑛

業權ヲ讓渡シ又ハ當該鑛區ノ分合、減區若ハ増減區ノ出願ヲ爲スコトヲ得ズ

第七條 政府鑛業權ヲ讓渡シ又ハ隣接鑛區トノ間ノ鑛區ノ増減ヲ爲ス旨ノ裁定

又ハ決定ヲ爲スコトキハ其ノ裁定又ハ決定ニ於テ鑛業權者ニ支拂フベキ對價及

其ノ支拂ノ時期ヲ定ムルコトヲ要ス

第八條 裁定又ハ決定中對價ニ付不服アル者ハ其ノ裁定又ハ決定ノ通知ヲ受ケザ

タル日(裁定又ハ決定ノ通知ヲ受ケザル者ニ付テハ其ノ公示ノ日)ヨリ三十

日以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九條 左ニ掲グル場合ニ於テハ對價ヲ支拂フベキ者ハ其ノ對價ヲ供託スルコ

トヲ要ス

一 對價ヲ受クベキ者ガ其ノ受領ヲ拒ミタルトキ又ハ之ヲ受領スルコト能

ハザルトキ

定ニ依リ出訴アリタルトキ

三 鑛業權ニ付抵當權ノ設定アルトキ但シ抵當權者ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項第三號ノ場合ニ於テハ抵當權者ハ供託金ニ對シテモ其ノ權利ヲ行フコト

ヲ得

第十條 對價ヲ支拂フベキ者裁定又ハ決定ニ於テ定メタル對價支拂ノ時期迄ニ

對價ノ全部ノ支拂又ハ供託ヲ爲サザルトキハ鑛業權者ハ對價ヲ支拂フベキ者

ニ對シ六十日ヲ下ラザル一定ノ期間内ニ其ノ支拂又ハ供託ヲ爲スベキ旨ヲ催

告スルコトヲ得

前項ノ期間内ニ支拂又ハ供託ナキトキハ裁定又ハ決定ハ其ノ效力ヲ失フ

第十一條 裁定又ハ決定ニ依リ對價ノ全部ノ支拂又ハ供託アリタルトキハ政府

ハ鑛業權ノ移轉又ハ變更ノ登録ヲ爲ス鑛業權者對價ノ全部又ハ一部ノ支拂ニ

付延期ヲ承諾シタルトキ亦前項ニ同ジ此ノ場合ニ於テ政府ハ對價ヲ支拂フ受

クル權利ヲ有スル者ノ爲移轉又ハ變更アリタル鑛業權ニ付抵當權設定ノ登録

ヲ爲ス

第十二條 第四條乃至第十條ノ規定ハ鑛業權ノ讓渡又ハ隣接鑛區トノ間ノ鑛區

ノ増減ニ伴ヒ必要ナル事業設備ノ讓渡ニ之ヲ準用ス但シ第九條中抵當權トアルハ登記シタル擔保權、抵當權者トアルハ擔保權者トス

事業設備ヲ讓渡スル旨ノ裁定又ハ決定アリタルトキハ其ノ權利ハ裁定又ハ決定ニ依ル對價ノ全部ノ支拂又ハ供託アリタル時移轉ス

第十三條 本法ニ規定スルモノノ外裁定又ハ決定ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 第四條第二項ノ規定ニ依ル裁定又ハ第五條第二項ノ規定ニ依ル決定ニ依リ鑛業權ヲ取得シ又ハ鑛區ヲ増區セラレタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ事業計畫ヲ定メ政府ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

政府必要アリト認ムルトキハ前項ノ事業計畫ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第十五條 鑛業權者前條第一項ノ規定ニ違反シ認可ヲ受ケザル事業計畫ヲ實施シ又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ事業計畫ヲ變更セズシテ之ヲ實施シタルトキハ政府ハ鑛業權ヲ取消スコトヲ得

第十六條 政府重要鑛物ノ増産ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ重要鑛物ヲ目的トスル鑛業權者ニ對シ事業設備ノ新設、擴張若ハ改良ヲ命ジ又ハ作業方法若ハ作業用品ノ規格ニ關シ必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ規定ニ依リ爲シタル命令ニ因リ生ジタル損失ヲ補償ス

第十七條 政府ハ重要鑛物ヲ目的トスル

鑛業權者ニ對シ其ノ業務及財産ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシメ又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ノ検査ヲ爲スコトヲ得

政府ハ重要鑛物ヲ目的トスル鑛業權者ニ對シ其ノ業務及會計ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十八條 本法ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ鑛業權者ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第十九條 政府第四條第二項(第十二條第一項ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依リ裁定、第五條第二項(第十二條第一項ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依ル決定、第十六條第一項ノ規定ニ依ル命令又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル補償ヲ爲サントスルトキハ重要鑛物委員會ノ議ヲ經ベシ

重要鑛物委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二條第一項ノ規定ニ依ル命令若ハ同條第二項ノ規定ニ違反シ事業計畫ノ届出ヲ怠リ又ハ届出デタル事業計畫ヲ實施セザル者

二 第二條第三項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ事業計畫ヲ變更セズシテ之ヲ實施シタル者

三 第三條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ

タル者

四 第十四條第一項ノ規定ニ違反シ認可ヲ受ケザル事業計畫ヲ實施シタル者

五 第十四條第二項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ事業計畫ヲ變更セズシテ之ヲ實施シタル者

六 第十六條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十七條第一項ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者

二 第十七條第一項ノ規定ニ依ル検査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

三 第十七條第二項ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者

二十二條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第二十條又ハ前條第一號若ハ第三號ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦前二條ノ刑ヲ科ス

本法失効ノ際ニ於テ必要ナル經過規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

日本産金振興株式會社法案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十三年三月四日
衆議院議長 小山 松壽
貴族院議長 伯松平頼壽殿

日本産金振興株式會社法案
第一章 總則

第一條 日本産金振興株式會社ハ産金事業ノ振興ヲ圖ル爲必要ナル事業ヲ營ムコトヲ目的トスル株式會社トス

第二條 日本産金振興株式會社ハ其ノ本店ヲ東京市ニ、支店ヲ京城府ニ置ク日本産金振興株式會社ハ前項ノ外政府ノ認可ヲ受ケ支店又ハ出張所ヲ設クルコトヲ得

第三條 日本産金振興株式會社ノ資本ハ五千萬圓トシ内二千五百萬圓ハ政府ノ出資トス

第四條 日本産金振興株式會社ハ株金全額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得

第五條 日本産金振興株式會社ノ株式ハ記名式トシ政府、公共團體、帝國臣民又ハ帝國法人ニ限り之ヲ所有スルコトヲ得

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法ハ施行後五年間ヲ限り其ノ效力ヲ有ス

第六條 日本産金振興株式會社ノ存立期間ハ設立登記ノ日ヨリ三十年トス但シ政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ延長スルコトヲ得

第七條 日本産金振興株式會社ニ非ザルモノハ日本産金振興株式會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ其ノ商號ト爲スコトヲ得ズ

第二章 役員

第八條 日本産金振興株式會社ニ社長副社長各一人、理事三人以上及監事二人以上ヲ置ク

第九條 社長ハ日本産金振興株式會社ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス

副社長ハ社長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ社長缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

副社長及理事ハ社長ヲ補助シ日本産金振興株式會社ノ業務ヲ分掌ス

監事ハ日本産金振興株式會社ノ業務ヲ監査ス

第十條 社長及副社長ハ政府之ヲ命ジ其ノ任期ヲ四年トス

理事ハ株主中ヨリ株主總會ニ於テ二倍ノ候補者ヲ選舉シ政府其ノ中ヨリ之ヲ命ジ其ノ任期ヲ三年トス

第十一條 社長、副社長及理事ハ他ノ職務又ハ商業ニ従事スルコトヲ得ズ但シ政府ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在

ラズ

第三章 營業

第十二條 日本産金振興株式會社ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス

一 金鑛ヲ目的トスル鑛業若ハ砂金ヲ目的トスル砂鑛業（以下金鑛業ト總稱ス）、金製鍊業又ハ金鑛業若ハ金製鍊業ノ用ニ供スル器具機械類ノ製造業ニ對スル資金ノ融通又ハ投資

二 金鑛業又ハ金製鍊業

三 金鑛業又ハ金製鍊業ノ爲必要ナル器具、機械、材料又ハ設備ノ賣買

四 合金鑛産物ノ賣買

五 委託ニ依ル金鑛山ニ關スル調査又ハ鑑定

日本産金振興株式會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ前項ノ事業ノ外本會社ノ目的達成上必要ナル諸事業ヲ營ムコトヲ得

第十三條 日本興業銀行、朝鮮殖産銀行又ハ東洋殖産株式會社ハ前條第一項第一號ノ事業ニ關シ日本産金振興株式會社ノ業務ノ一部ヲ代理スルコトヲ得

日本産金振興株式會社前項ノ銀行又ハ會社ヲシテ業務ノ一部ヲ代理セシメントスルトキハ政府ノ認可ヲ受ケタベシ

第十四條 日本産金振興株式會社ハ拂込ミタル株金額ノ五倍ヲ限リ産金振興債券ヲ發行スルコトヲ得

産金振興債券ヲ發行スル場合ニ於テハ商法第二百九條ニ定ムル決議ニ依ルコトヲ要セズ

トヲ要セズ

第十五條 産金振興債券ヲ發行セントスル場合ニ於テハ政府ノ認可ヲ受ケタベシ

第十六條 政府ハ産金振興債券ノ元本ノ償還及利息ノ支拂ニ付保證スルコトヲ得

第十七條 産金振興債券ハ無記名式トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ因リ記名式ト爲スコトヲ得

第十八條 産金振興債券ノ所有者ハ日本産金振興株式會社ノ財産ニ付他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第十九條 日本産金振興株式會社ハ社債借換ノ爲一時第十四條ノ制限ニ依ラズ産金振興債券ヲ發行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ發行後一月以内ニ其ノ社債總額ニ相當スル舊産金振興債券ヲ償還スベシ

第二十條 日本産金振興株式會社ハ每營業年度ニ準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益金額ノ百分ノ八以上ヲ積立テ且利益配當ノ平均ヲ得シムル爲利益金額ノ百分ノ二以上ヲ積立ツベシ

第二十一條 政府ハ日本産金振興株式會社ノ業務ヲ監督ス

第二十二條 日本産金振興株式會社借入金ヲ爲サントスルトキハ政府ノ認可ヲ受ケタベシ

第二十三條 定款ノ變更、利益金ノ處分、合併及解散ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二十四條 日本産金振興株式會社ハ每營業年度ノ事業計畫ヲ定メ政府ノ認可ヲ受ケタベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第二十五條 政府ハ日本産金振興株式會社ノ業務ニ關シ監督上又ハ産金事業ノ振興上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十六條 政府ハ日本産金振興株式會社ノ業務ヲ置キ日本産金振興株式會社ノ業務ヲ監視セシム

第二十七條 日本産金振興株式會社ノ官ハ何時ニテモ日本産金振興株式會社ノ金庫、帳簿及諸般ノ文書物件ヲ検査スルコトヲ得

日本産金振興株式會社ノ官ハ何時ニテモ日本産金振興株式會社ノ金庫、帳簿及諸般ノ文書物件ヲ検査スルコトヲ得

日本産金振興株式會社ノ官ハ何時ニテモ日本産金振興株式會社ノ金庫、帳簿及諸般ノ文書物件ヲ検査スルコトヲ得

日本産金振興株式會社ノ官ハ何時ニテモ日本産金振興株式會社ノ金庫、帳簿及諸般ノ文書物件ヲ検査スルコトヲ得

日本産金振興株式會社ノ官ハ何時ニテモ日本産金振興株式會社ノ金庫、帳簿及諸般ノ文書物件ヲ検査スルコトヲ得

日本産金振興株式會社ノ官ハ何時ニテモ日本産金振興株式會社ノ金庫、帳簿及諸般ノ文書物件ヲ検査スルコトヲ得

日本産金振興株式會社ノ官ハ何時ニテモ日本産金振興株式會社ノ金庫、帳簿及諸般ノ文書物件ヲ検査スルコトヲ得

日本産金振興株式會社ノ官ハ何時ニテモ日本産金振興株式會社ノ金庫、帳簿及諸般ノ文書物件ヲ検査スルコトヲ得

日本産金振興株式會社ノ官ハ何時ニテモ日本産金振興株式會社ノ金庫、帳簿及諸般ノ文書物件ヲ検査スルコトヲ得

日本産金振興株式會社ノ官ハ何時ニテモ日本産金振興株式會社ノ金庫、帳簿及諸般ノ文書物件ヲ検査スルコトヲ得

日本産金振興株式會社ノ官ハ何時ニテモ日本産金振興株式會社ノ金庫、帳簿及諸般ノ文書物件ヲ検査スルコトヲ得

日本産金振興株式會社ノ官ハ何時ニテモ日本産金振興株式會社ノ金庫、帳簿及諸般ノ文書物件ヲ検査スルコトヲ得

日本産金振興株式會社ノ官ハ何時ニテモ日本産金振興株式會社ノ金庫、帳簿及諸般ノ文書物件ヲ検査スルコトヲ得

日本産金振興株式會社ノ官ハ何時ニテモ日本産金振興株式會社ノ金庫、帳簿及諸般ノ文書物件ヲ検査スルコトヲ得

日本産金振興株式會社ノ官ハ何時ニテモ日本産金振興株式會社ノ金庫、帳簿及諸般ノ文書物件ヲ検査スルコトヲ得

込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ四ノ割合ニ達スル迄政府ノ所有スル株式ニ對シ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ要セス

第三十條 日本産金振興株式會社ノ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ四ノ割合ニ達セザルトキハ政府ハ初營業年度及爾後五年間ヲ限り之ニ達セシムベキ金額ヲ補給スベシ但シ其ノ額ハ初營業年度ヲ除キ每營業年度ニ於テハ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ四ノ割合ニ相當スル額及當該營業年度ニ於テ支拂ヒタル産金振興債券ノ利息額ノ合計額ヲ超ユルコトヲ得ズ

初營業年度及爾後五年間ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ四ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ハ先ヅノ前項ノ規定ニ依ル補給金ノ償還ニ充ツベシ

第二項ノ規定ニ依リ補給金ヲ償還シ尙殘餘アリタルトキハ之ヲ前項ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ四ノ割合ヲ

超過シタル當該營業年度ノ利益金ト看做ス

前二項ノ規定ニ依ル積立金ハ後營業年度ニ於ケル第一項ノ規定ニ依ル補給金ノ計算ニ付テハ之ヲ配當シ得ベキ利益金ト看做ス

第三十一條 日本産金振興株式會社ノ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ四ノ割合ヲ超過スル場合ニ於テ政府以外ノ者ノ所有スル株式ニ對シ年百分ノ四ノ割合ヲ超エ利益配當ヲ爲サントスルトキハ其ノ超過スル利益金額ハ利益配當ガ總株式ニ付拂込ミタル株金額ニ對シ均一ノ割合ニ達スル迄政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額及政府ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ一ト五トノ割合ヲ以テ之ヲ配當スベシ

第三十二條 日本産金振興株式會社ニハ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ十年間所得稅及營業收益稅ヲ免除ス

第三十三條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前條ノ期間日本産金振興株式會社ノ事業ニ對シ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七節 罰則

第三十四條 日本産金振興株式會社左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ社長又ハ社

長ノ職務ヲ行ヒ若ハ代理スル副社長ヲ百圓以上二千圓以下ノ過料ニ處ス副社長又ハ理事ノ分掌業務ニ係ルトキハ副社長又ハ理事ヲ過料ニ處スルコト亦同ジ

一 本法ニ依リ認可ヲ受クベキ場合ニ於テ其ノ認可ヲ受ケザルトキ

二 第十二條ノ規定ニ依ラズシテ業務ヲ營ミタルトキ

三 第十四條ノ規定ニ違反シ産金振興債券ヲ發行シタルトキ

四 第十九條ノ規定ニ違反シ産金振興債券ノ償還ヲ爲サザルトキ

五 第二十五條ノ規定ニ基キテ爲シタル命令ニ違反シタルトキ

第三十五條 日本産金振興株式會社社長、副社長及理事第十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十六條 第七條ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十七條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前三條ノ過料ニ之ヲ準用ス

第三十八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十九條 政府ハ設立委員ヲ命ジ日本産金振興株式會社ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第四十條 設立委員ハ定款ヲ作成シ政府

ノ認可ヲ受クベシ

第四十一條 前條ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ株式總數ヨリ政府ニ割當ツベキ株式ヲ控除シタル殘餘ノ株式ニ付株主ヲ募集スベシ

第四十二條 株式申込證ニハ定款認可ノ年月日並ニ商法第二百六條第二項第一號、第四號及第五號ニ規定スル事項ヲ記載スベシ

第四十三條 設立委員株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込證ヲ政府ニ提出シ其ノ檢査ヲ受クベシ

第四十四條 設立委員ハ前條ノ檢査ヲ受ケタル後遲滞ナク各株ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシムベシ

前項ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク創立總會ヲ召集スベシ

第四十五條 創立總會ニ於テハ第十條ノ規定ニ準ジ理事候補者ノ選舉及監事ノ選任ヲ行フベシ

第四十六條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ日本産金振興株式會社社長ニ引渡スベシ

第四十七條 本法施行ノ際日本産金振興株式會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ商號ト爲ス會社ハ本法施行後六月以内ニ其ノ商號ヲ變更スルコトヲ要ス

第三十六條ノ規定ハ前項ノ期間内之ヲ前項ニ掲グル者ニ適用セス

第四十八條 登錄稅法第六條第一項第十號中「又ハ燃料興業債券」ヲ「燃料興

業債券」ニ改メテ之ヲ適用ス

一號中「又ハ燃料興業債券」ヲ「燃料興業債券」ニ改メテ之ヲ適用ス

業債券又ハ産金振興債券ニ改ム

第四十九條 金資金特別會計法第四條中

「又ハ國債」ヲ「國債、産金振興債券又ハ總額二千五百萬圓ヲ限り日本産金振興株式會社株式」ニ改ム

(國務大臣吉野信次君演壇ニ登ル)

○國務大臣(吉野信次君) 只今議題ニナリ

マシタニツノ法律案ニ付キマシテ御説明ヲ申上ゲタイト存ジマス、第一ノ重要礦物増産法案デアリマスルガ、申ス迄モナク礦物資源ハ、國防上産業上最も重要ナル物デゴザイマシテ、之ガ増産ヲ圖リマスルコトハ、現下ノ時局ニ於キマシテ極メテ緊要ノコトデアリマス、從來重要ナル礦産物ニシテ、其ノ大部分ノ供給ヲ外國カラノ輸入ニ仰イデ居ッタ物モ少クナイノデアリマスルガ、幸ヒナコトニハ是等ノ礦物ノ或物ハ、我が國ニ於キマシテ尙相當地下ニ埋藏セラレテ居ルノデアリマシテ、此ノコトハ從來ノ調査等ニ依リマシテモ略、想像ガ出來ルノデアリマス、ソコデ此ノ法律案ハ是等ノ礦物ノ増産ヲ圖ルコトヲ目的トスルモノデゴザイマシテ、其ノ手段ト致シマシテ、先ヅ現在礦業權ヲ持ッテ居リナガラ、徒ニ其ノ權利ノ上ニ眠ッテ居ル、所謂睡眠礦區ト云フヤウナ此ノ權利者ニ其ノ權利ノ行使ヲ促シ、或ハ錯雜併存致シテ居リマスル礦區ノ間ノ整理ヲ促進セシメ、或ハ重要礦物ヲ目的トスル礦業權者ニ對シマシテ、其ノ開發ニ關スル事業計畫ヲ届出デシムルト共ニ、更ニ進ミ

マシテハ必要ニ應ジテ、増産ニ關スル施設ニ付キマシテ、適切ナル措置ヲ講ジヨウトスルノデアリマス、尤モ本法律案ニ於キマシテモ、抵當權者ノ利益等ニ付キマシテハ、十分ニ考慮ヲ拂フコトニ致シテ居リマス、又權利關係ノ重要ナル事項、竝ニ増産ニ關スル施設命令等ニ付キマシテハ、特ニ官民有識者ヲ以テ組織致シマスル重要礦物委員會ヲ作りマシテ、是等ノ委員會ニ付議致シマシテ、以テ法ノ運用ノ適正ヲ期スル考デアリマス、尙此ノ法律案ニ規定シテ居リマスル條項ノ中ニハ、現行ノ礦業法規ニ密接ナル關係ヲ有スルモノモゴザイマシテ、或ハ現在ノ礦業法中ニ規定シテ然ルベキモノト思レルモノモ少クナイノデアリマス、併シナガラ御承知ノ通り現行ノ礦業法ノ一般改正ハ、目下政府ニ於キマシテ、調査委員會ヲ設ケテ著々研究ヲ進メテ居ル次第デアリマスルカラ、其ノ邊トノ關係ヲ考慮致シマシテ、此ノ法律案ハ其ノ施行期間ヲ五箇年ト致シマシタ次第デゴザイマス、次ニ日本産金振興株式會社法案デアリマスルガ、我が國ニ於キマシテ金ノ増産ノ必要ナルコトハ、茲ニ事新ラシク申述ベル必要モナイノデアリマシテ、政府ニ於キマシテハ昭和七年以來色々産金事業ノ獎勵助長ノ方策ヲ行ッテ參リ、更ニ前々議會即チ第七十一議會ニ於キマシテハ、一層金ノ増産獎勵ノ施設ヲ擴充致シマスルト共ニ、産金法ナル法律ヲ制定致シマシタコトハ御承知ノ通りデアリマス、幸ニ我が國ノ産金額ハ近年順調ナ

ル増加ヲ示シツ、アルノデアリマスガ、金ノ増産ハ我が國策ノ遂行上、今後益、其ノ重要性ヲ加ヘルノデアリマスカラ、政府ニ於キマシテモ之ガ爲ニハ尙一層ノ努力ヲ致シタイト考ヘルノデアリマス、ソコデ此ノ際産金事業ノ振興ヲ圖リマスル爲ニ、半官半民ノ日本産金振興株式會社ト云フモノヲ設立致シマシテ、特ニ産金事業ニ對シマシテ、必要ナル資金ヲ潤澤ニ供給シ得ルノ途ヲ開キ、又低品位ノ礦石ノ處理ヲ促シ、其ノ他金ノ増産上必要ナル色々ノ助成ノ事業ヲ行ハシメタイト存ズルノデアリマス、此ノ法案ハ畢竟スル處、右會社ノ設立ニ關スルモノデアリマス、何卒此ノ二法案トモ十分ニ御審議下サイマシテ、御協賛アラムコトヲ希望致シマス

○子爵戸澤正己君 只今議題トナリマシタ

ル重要礦物増産法案外一件ハ重要ナ法案デアリマスルガ故ニ、其ノ特別委員數ヲ十八名トシ、其ノ指名ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出致シマス

○子爵秋田重季君 賛成

○議長(伯爵松平頼壽君) 戸澤子爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

〔丸龜書記官朗讀〕

重要礦物増産法案外一件特別委員
侯爵山内 豊景君 侯爵四條 隆愛君
伯爵副島 道正君 子爵井上匡四郎君

子爵立花 種忠君 子爵高橋 是賢君
出淵 勝次君 男爵松田 正之君
男爵杉溪 由言君 遠藤 柳作君
堀 啓次郎君 久恒 貞雄君
松本勝太郎君 平沼 亮三君
絲原武太郎君 小野 耕一君
大西虎之介君 男爵水谷川忠麿君

○議長(伯爵松平頼壽君) 日程第五、不動

産融資及損失補償法中改正法律案、日程第六、産業組合中央金庫法中改正法律案、日程第七、漁業法中改正法律案、日程第八、産業組合中央金庫特別融通及損失補償法中改正法律案、日程第九、産業組合自治監査法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、是等ノ五案ヲ一括シテ議題トスルコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(伯爵松平頼壽君) 御異議ナイト認メマス、賀屋大藏大臣

不動産融資及損失補償法中改正法律案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議
院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十三年三月五日
衆議院議長 小山 松壽
貴族院議長 伯爵松平頼壽殿

不動産融資及損失補償法中改正法律案

不動産融資及損失補償法中左ノ通改正ス
第二條中「六年」ヲ「九年」ニ、「十五年」ヲ

「十八年」ニ改ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

産業組合中央金庫法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十三年三月五日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長 伯爵松平頼壽殿

産業組合中央金庫法中改正法律案

産業組合中央金庫法中左ノ通改正ス

第二條第三項中「産業組合聯合會」ノ下ニ

「及漁業組合聯合會」ヲ加フ

第四條ノ二 産業組合中央金庫ノ資本金

ヲ五百萬圓増加シ之ヲ五萬圓ニ分チ一

口ノ金額ヲ百圓トス

第五條第一項中「又ハ産業組合」ヲ「産業

組合、漁業組合聯合會又ハ漁業協同組

合」ニ改メ同條第二項中「産業組合聯合

會」ノ下ニ「又ハ漁業組合聯合會」ヲ、

「産業組合」ノ下ニ「又ハ漁業協同組合」

ヲ加フ

第六條ノ二 政府ハ第四條ノ二ノ規定ニ

依ル資本金ノ増加ノ爲ニ二百五十萬圓ヲ

限リ産業組合中央金庫ニ出資スベシ政

府ハ其ノ出資ニ對シ出資スベキコトト

爲リタル當初ニ於テ五十萬圓ヲ拂込ミ

爾後四箇年間ニ其ノ殘餘ヲ拂込ムモノ

トス

第四條ノ二ノ規定ニ依ル増加資本金ニ

付テハ政府以外ノ出資者ハ其ノ出資ニ

對シ出資スベキコトト爲リタル當初ニ

於テ出資額ノ五分ノ一ヲ拂込ミ爾後十

箇年間ニ其ノ殘餘ヲ拂込ムモノトス

第十二條第一項中「二十名」ヲ「三十名」ニ

改メ「産業組合關係者」ノ下ニ「及漁業組

合關係者」ヲ加フ

第十三條中「又ハ所屬産業組合」ヲ「所屬産

業組合、所屬漁業組合聯合會又ハ所屬漁

業協同組合」ニ改メ同條第五號中「産業組

合」ノ下ニ「漁業組合聯合會、漁業組合」

ヲ加フ

第十四條ノ二 第十三條第二號但書ノ規

定及前條ニ規定スル第十三條第二號但

書ノ規定ハ産業組合中央金庫ガ政府資

金ノ融通ヲ爲ス場合ニハ之ヲ適用セズ

前項ノ融通金額及之ヲ爲ス爲發行スル

産業債券ノ額ハ第十三條第二號但書及

前條ニ規定スル第十三條第二號但書ノ

制限ノ計算上之ヲ算入セズ

第十五條第一項第一號中「買入」ノ下ニ、

「應募又ハ引受」ヲ加ヘ同項第三號中「又

ハ産業組合」ヲ「産業組合、漁業組合聯合

會又ハ漁業組合」ニ改メ同項ニ左ノ一號

ヲ加フ

四 産業組合聯合會、産業組合、漁業

組合聯合會又ハ漁業組合ノ發達ヲ圖

ル爲ニ必要ナル施設ヲ行フ法人ニ對シ

主務大臣ノ認可ヲ受ケ短期貸付ヲ爲

スコト

第二十三條 削除

第三十條中「每事業年度ノ初ニ於テ」ヲ

「事業年度ニ從ヒ六箇月毎ニ」ニ「其ノ事

業年度内」ヲ「其ノ期間内」ニ改ム

第三十三條 産業組合中央金庫ハ每事業

年度ニ於ケル出資ニ對シ配當シ得ベキ

剩餘金額ガ政府以外ノ者ノ拂込濟出資

額ニ對シ年百分ノ四ノ割合ニ達スル迄

政府ノ出資ニ對シ剩餘金ノ配當ヲ爲ス

コトヲ要セズ

産業組合中央金庫ノ每事業年度ニ於ケ

ル出資ニ對シ配當シ得ベキ剩餘金額ガ

政府以外ノ者ノ拂込濟出資額ニ對シ年

百分ノ四ノ割合ヲ超過スル場合ニ於テ

政府以外ノ者ニ對シ年百分ノ四ノ割合

ヲ超エ剩餘金配當ヲ爲サントスルトキ

ハ其ノ超過スル剩餘金額ハ剩餘金配當

額ガ總拂込濟出資額ニ對シ均一ノ割合

ニ達スル迄政府以外ノ者ノ拂込濟出資

額及政府ノ拂込濟出資額ニ對シ一ト三

割トノ合ヲ以テ之ヲ配當スベシ

附則

本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ

之ヲ定ム

漁業法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議

院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十三年三月五日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長 伯爵松平頼壽殿

漁業法中改正法律案

漁業法中左ノ通改正ス

第四十三條ノ二第一項第四號中「又ハ」ヲ

「若ハ」ニ改メ「資金ノ供給」ノ下ニ「又ハ

組合員ノ貯金ノ受入」ヲ加ヘ同項ニ左ノ

但書ヲ加フ

但シ組合員ニ出資ヲ爲サシメザル漁業

組合ハ組合員ノ貯金ノ受入ニ關スル施

設ヲ爲スコトヲ得ズ

同條第二項中「前項」ヲ「第一項」ニ改メ

「組合ノ施設ハ」ノ下ニ「組合員ノ貯金ノ

受入ニ關スルモノヲ除クノ外」ヲ加ヘ同

條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

組合員ノ貯金ノ受入ニ關スル施設ヲ爲

ス漁業組合ハ組合員外ノ者ニシテ組合

加入ノ豫約ヲ爲シタルモノノ出資一口

ノ金額及出資一口ニ付規約ノ定ムル所

ニ依リ加入ニ關シ拂込ムベキ金額ノ合

計額ニ達スル迄ノ貯金又ハ組合員ト同

一ノ家ニ在ル者ノ貯金ノ受入ヲ爲スコ

トヲ得

第四十四條第五項中「第四十三條ノ二」ヲ

「第四十三條ノ二第一項第三項」ニ改メ同

項但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ第四十三條ノ二第一項各號及第三

項中組合員トアルハ貯金ノ受入ニ關ス

ル場合ヲ除クノ外所屬ノ組合、聯合會

及組合員トス

第四十四條ノ二 漁業組合聯合會ハ日本

勸業銀行、日本興業銀行、北海道拓殖

銀行、農工銀行又ハ産業組合中央金庫ニ對シ所屬ノ組合又ハ聯合會ノ爲ニ債務ノ保證ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ債務ノ保證ヲ爲シタルトキハ漁業組合聯合會ハ銀行又ハ産業組合中央金庫ノ委任ヲ受ケ其ノ債權ノ取立ヲ爲スコトヲ得

第四十四條ノ三 道府縣ヲ區域トスル漁業組合聯合會ハ規約ノ定ムル所ニ依リ所屬ノ組合又ハ聯合會ニ對シ手形ノ割引ヲ爲スコトヲ得

本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

産業組合中央金庫特別融通及損失補償法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十三年三月五日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長 伯爵松平賴壽殿

産業組合中央金庫特別融通及損失補償法中改正法律案

産業組合中央金庫特別融通及損失補償法中左ノ通改正ス

第二條中「六年」ヲ「九年」ニ、「十五年」ヲ「十八年」ニ改ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

産業組合自治監査法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十三年三月五日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長 伯爵松平賴壽殿

産業組合自治監査法案

産業組合自治監査法

第一條 産業組合ハ其ノ堅實ナル發達ヲ圖ル爲自治監査ヲ行フ目的ヲ以テ産業組合監査聯合會ヲ設立スルコトヲ得

産業組合聯合會ハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ産業組合ト看做ス

第二條 産業組合監査聯合會ハ法人トシ全國ヲ通ジ一箇トス

産業組合監査聯合會ノ設立ハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

主務大臣必要アリト認ムルトキハ産業組合ニ對シ産業組合監査聯合會ニ加入スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第三條 産業組合監査聯合會ノ設立アリタルトキハ事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スベシ登記シタル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキ亦同ジ

産業組合監査聯合會ノ設立又ハ登記シタル事項ノ變更ハ其ノ登記ヲ爲スニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第四條 産業組合監査聯合會ハ産業組合監査員ヲ設置ス

産業組合監査員ノ選任及解任ハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

産業組合監査員ハ産業組合監査聯合會ニ屬スル産業組合ノ事務所、倉庫、加工場其ノ他ノ場所ニ臨ミ金錢、物品、帳簿其ノ他ノ物件ヲ調査シ當該産業組合ノ事業及財産ノ狀況ヲ監査スルコトヲ得

産業組合監査員及其ノ行フ監査ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 行政官廳ハ産業組合監査聯合會又ハ産業組合監査員ニ對シ産業組合ノ監査上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第六條 産業組合監査聯合會ニハ所得稅ヲ課セズ

産業組合監査聯合會ガ本法ニ基キテ爲ス登記ニ付テハ登録稅ヲ課セズ

第七條 本法ニ規定スルモノノ外産業組合監査聯合會ノ設立、登記、管理、監督、解散、清算其ノ他産業組合監査聯合會ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 産業組合中央會及産業組合中央金庫ハ産業組合監査聯合會ニ加入スルコトヲ得

第九條 産業組合ノ役員産業組合監査員ノ行フ監査ヲ拒ミタルトキハ三百圓以下ノ過料ニ處ス

産業組合監査員第五條ノ規定ニ依リ命令ニ違反シタルトキハ三百圓以下ノ過料ニ處ス

産業組合監査聯合會ノ役員本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ三百圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前三項ノ過料ニ之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔國務大臣(賀屋興宣君) 只今議題トナリ

マシタ不動産融資及損失補償法中改正法律案ニ付キマシテ説明申上ゲマス、不動産融資及損失補償法ハ、昭和七年ニ當時ノ金融情勢ニ願ミ銀行ノ有スル不動産固定資産ヲ資金化シテ、其ノ活動ヲ圓滑ナラシメムトスル趣旨ヲ以テ制定サレマシタノデ、其ノ不動産資金ノ融通期間ヲ三箇年ト定メタノデアリマスルガ、其ノ後昭和十年ニ至リマシテ、其ノ期間ハ更ニ三年延長セラレ、本年九月末ヲ以テ滿了スルコトト相成ツテ居ルノデアリマス、然ルニ最近ニ於ケル銀行ノ不動産固定資産ノ情況ヲ見マスルニ、近年ニ於ケル經濟界ノ好況ノ影響ヲ受ケマシテ、之ガ整理モ漸次進捗シテ參ツタノデアリマスガ、尙之ヲ個々ノ銀行ニ付テ觀マサル時メラレルノデアリマス、ノミナラズ事變ノ際デモアリマスノデ、本施設ハ尙之ヲ當分存續セシムルヲ適當ト考ヘルノデアリマス、仍テ本法ノ不動産資金ノ融通期間ヲ更ニ三箇年間延長シマスルト共ニ、資金融通ノ最

長期間モ現在本法ノ施行ノ日ヨリ十五年以内トセラレテ居リマスノヲ三年間延長致シ、之ヲ本法施行ノ日ヨリ十八年以内トスルヲ適當ト認メマシタノデ、本案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、御審議ノ上何卒御協贊アラムコトヲ希望致シマス

○議長(伯爵松平賴壽君) 高橋農林政務次官

(政府委員高橋守平君演壇ニ登ル)

○政府委員(高橋守平君) 先ヅ産業組合中央金庫法中改正法律案ノ提出理由ヲ御説明申上ゲマス、産業組合中央金庫ハ産業組合金融ノ中樞機關トシテ、農村金融ニハ相當其ノ機能ヲ發揮シツ、アルノデアリマシガ、漁村ニ於キマシテハ金融上ノ十分ナ所ガアリマシテ、漁村ノ經濟上ノ中樞機關タル漁業組合ハ、中樞的金融機關ヲ持タヌ爲メ、其ノ活動上遺憾ナ所ガアリマスノデ、漁業組合ニ對シ産業組合中央金庫ニ加入スルノ途ヲ開キマスルト共ニ、刻下組合金融ノ實情ニ應ジマシテ、其ノ活動ヲ一層促進シ且適切ナラシメマスル爲ニ、産業組合中央金庫法中不便ノ點ヲ改正致シ、尙又産業組合中央金庫ニ對スル政府ノ出資ニ對シマシテハ、從來剩餘金ノ配當ヲ爲スコトヲ要シナイコトニナツテ居リマスガ、其ノ期間ハ近ク終了致シマスノデ、同金庫ノ現狀及漁業組合ノ新規加入ノ事實ニ鑑ミマシテ、政府ノ出資ニ對スル今後ノ配當ニ關スル規定ヲ定メル必要ガアリマスルノデ本案ヲ提出致シタ次第デアリマス、改正ノ主要ナル點

ヲ申上ゲマス、一、漁業組合聯合會及漁業協同組合ノ産業組合中央金庫ニ對スル加入ノ途ヲ開クコト、二、漁業組合聯合會及漁業協同組合ノ産業組合中央金庫加入ニ伴ヒ、同金庫ノ資本金ヲ新タニ五百萬圓増加シ、政府ハ其ノ中二百五十萬圓ヲ限リ出資スルコト、三、評議員ノ定員二十名以内ヲ三十名以内ニ増加スルコト、四、年賦償還貸付額ノ制限ニ關スル現行法ノ規定ヲ政府資金ヲ融通スル場合ニハ適用セザルコトトスルコト、五、餘裕金運用ノ範圍ヲ擴張スルコト、六、事業年度ニ付テハ一般ノ産業組合及同聯合會ト同様ノ規定ニ依ルコトトスルコト、七、政府以外ノ者ノ出資ニ對スル配當ガ一定率以下ナル場合ニハ、政府ノ出資ニ對スル配當ヲ制限スルコトト致シタコトデアリマス、次ニ漁業法ノ改正ニ付御説明申上ゲタイト存ジマス、漁村金融ノ圓滑ヲ圖ル爲、先ニ御説明申上ゲマシタ通り漁業組合聯合會及漁業協同組合ヲ産業組合中央金庫ニ加入セシムルト共ニ、漁村經濟ノ中樞機關タル漁業組合聯合會及漁業協同組合ニ貯金ノ受入ニ關スル施設ヲ認メル外、漁業組合聯合會ノ活動促進ヲ圖ル爲、二、三ノ事項ニ關スル規定ヲ定メル必要ガアリマスノデ本案ヲ提出シタ次第デアリマス、改正ノ主要ナル點ハ第一ニ、漁業組合聯合會及漁業協同組合ニ貯金ノ受入ニ關スル施設ヲ認ムルコト

(副議長侯爵佐佐木行忠君議長席ニ著ク)

第二ニ、日本勸業銀行、日本興業銀行、北海道拓殖銀行、農工銀行又ハ産業組合中央金庫ガ漁業組合聯合會及漁業組合ニ對シ資金ノ供給ヲ爲スニ際シ、漁業組合聯合會ヲシテ保證ヲ爲スコトヲ得シムルコト、第三ニ道府縣ノ區域トスル漁業組合聯合會ガ、所屬ノ組合又ハ聯合會ニ對シ手形ノ割引ヲ爲スコトトシタノデアリマス、次ニ産業組合中央金庫特別融通及損失補償法中改正法律案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、産業組合中央金庫特別融通及損失補償法ハ、昭和七年施行以來相當ノ成績ヲ擧ゲテ居ルノデアリマスガ、御承知ノ通り其ノ融通期間ハ本年九月末ヲ以テ終了スルコトトナツテ居ルノデアリマス、然ルニ産業組合ノ現狀ニ鑑ミマスレバ、尙本制度ヲ繼續致シマシテ、事變下ニ於ケル組合金融ノ疏通ニ資スルコトガ必要デアルト考ヘルノデアリマス、仍テ組合金融ノ現況、整理更生ニ要スベキ期間等ヲ考慮致シマシテ、特別融通資金ノ融通期間及融通期限ヲ尙三箇年延長スルコトト致シタノデアリマス、最後ニ産業組合自治監査法案デアリマスガ、本法案ハ第七十回帝國議會ニ之ヲ提出致シマシテ、貴族院ニ於キマシテハ、可決セラレ、衆議院ニ於キマシテハ、委員會ニ付託セラレタ儘、衆議院ノ解散ノ爲不成立ニ終ツタノデアリマスガ、産業組合ノ現狀ニ鑑ミマシテ、茲ニ本會議ニ重ねテ之ヲ提案致シマシタヤウナ次第デアリマス、産業組合ノ堅實ナル發達ヲ期スル上ニ於キマシテハ、之ガ指導監

督ノ施設ヲ充實スルコトガ必要デアリマス、之ガ爲ニハ中央及地方ノ行政官廳ノ監督施設ト相俟チ、産業組合自身ノ自治的監査ノ制度ヲ確立シ、自治監査ノ履行ヲ期スルコトガ極メテ肝要ト存ズルノデアリマス、本案ハ右ノ趣旨ニ依リマシテ、全國ノ産業組合ヲシテ産業組合監査聯合會ヲ組織セシメ、官廳ノ監督ノ下ニ監査員ヲ設置シテ、組合ノ監査ニ當ラシメ、以テ自治監査ノ實ヲ擧ゲムコトヲ期セムトスルモノデアリマス、以上ガ四法案ヲ提出致シマシク理由ノ概要デアリマス、何卒御審議ノ上御協贊アラムコトヲ希望致シマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 別ニ御質疑ガナケレバ五案ノ特別委員ノ氏名ヲ報告致サセマス

(丸龜書記官朗讀)

不動産融資及損失補償法中改正法律案外四件特別委員

- 侯爵佐竹 義春君 子爵伊集院兼知君
- 子爵西大路吉光君 男爵園田 武彦君
- 加藤政之助君 中村圓一郎君
- 小倉 正恒君 吉田羊治郎君
- 佐々木八十八君

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 日程第十、有價證券引受業法案、政府提出、第一讀會、賀屋大藏大臣

右 有價證券引受業法案 勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス

昭和十三年三月五日

内閣總理大臣 公爵近衛 文麿
大藏大臣 賀屋 興宣

有價證券引受業法案

有價證券引受業法

第一條 本法ニ於テ有價證券引受業トハ有價證券ノ引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲ス營業ヲ謂フ

前項ノ有價證券ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 有價證券引受業ハ主務大臣ノ免許ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ營ムコトヲ得ズ

第三條 有價證券引受業ハ資本金二百萬圓以上ノ株式會社ニ非ザレバ之ヲ營ムコトヲ得ズ

第四條 第二條ノ免許ヲ受ケタル者(以下證券引受會社ト稱ス)ハ有價證券引受業ニ附隨スル業務又ハ有價證券ノ賣買若ハ其ノ媒介ノ外他ノ業務ヲ營ムコトヲ得ズ但シ主務大臣ノ許可ヲ受ケルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第五條 證券引受會社ハ他ノ法律ノ制限ニ拘ラズ社債募集ノ委託ヲ受ケ又ハ社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社ナキニ至リタル場合ノ事務承繼者ト爲ルコトヲ得

第六條 證券引受會社ハ左ノ場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ
一 商號ヲ變更セントストキ

二 資本金ヲ變更セントストキ

三 支店其ノ他ノ營業所又ハ代理店ヲ設置セントストキ

四 本店其ノ他ノ營業所ノ位置ヲ變更セントストキ

第七條 證券引受會社ノ合併ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第八條 證券引受會社ハ資本ノ總額ニ達スル迄ハ利益ヲ配當スル毎ニ準備金トシテ其ノ利益ノ十分ノ一以上ヲ積立ツベシ

第九條 證券引受會社ノ營業年度ハ六月ヨリ十一月迄及十二月ヨリ五月迄トス

第十條 證券引受會社ハ營業年度毎ニ業務報告書ヲ作成シテ之ヲ主務大臣ニ提出スベシ

第十一條 證券引受會社ハ營業年度毎ニ主務大臣ノ定ムル様式ニ依リ貸借對照表ヲ作成シ新聞紙ニ依リ之ヲ公告スベシ

第十二條 主務大臣ハ何時ニテモ證券引受會社ヲシテ其ノ業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ其ノ帳簿書類ヲ提出セシムルコトヲ得

第十三條 主務大臣ハ何時ニテモ部下ノ官吏ニ命ジテ證券引受會社ノ業務及財産ノ狀況ヲ検査セシムルコトヲ得

第十四條 主務大臣ハ證券引受會社ノ業務又ハ財産ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ業務ノ停止ヲ命ジ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十五條 證券引受會社ガ法令、定款若ハ主務大臣ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スベキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ業務ノ停止若ハ取締役、監査役ノ改任ヲ命ジ又ハ營業ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第十六條 主務大臣ハ業務ノ停止ヲ命ゼラレタル證券引受會社ニ對シ其ノ整理ニ依リ必要ト認ムルトキハ營業ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第十七條 主務大臣ノ免許ヲ受ケズシテ有價證券引受業ヲ營ミタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 左ノ場合ニ於テ取締役、監査役又ハ支配人ヲ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十條ノ規定ニ違反シ業務報告書ヲ提出セズ又ハ虚偽ノ業務報告書ヲ提出シタルトキ

二 第十一條ノ規定ニ違反シ公告ヲ爲サズ又ハ虚偽ノ公告ヲ爲シタルトキ

三 第十二條ノ規定ニ依リ命令ニ違反シ報告ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ報告ヲ爲シ又ハ帳簿書類ヲ提出セザルトキ

四 第十三條ノ規定ニ依リ検査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタルトキ

第十九條 左ノ場合ニ於テハ取締役、監査役又ハ支配人ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但シ其ノ行爲ニ付刑ヲ科スベキトキハ此ノ限ニ在ラズ

一 第四條、第六條又ハ第八條ノ規定ニ違反シタルトキ

二 第十條ノ規定ニ依リ業務報告書ノ提出又ハ第十一條ノ規定ニ依リ公告ヲ怠リタルトキ

三 本法ニ基キテ爲ス命令ニ違反シタルトキ

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ニ定ムル過料ニ之ヲ準用ス

第二十條 銀行、信託會社又ハ特別ノ法律ニ依リ設立セラレタル法人ニシテ有價證券引受業ヲ營ム者ニハ本法ヲ適用セズ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ有價證券引受業ヲ營ム者又ハ其ノ營業ヲ承繼シタル者ハ本法施行ノ日ヨリ三月ヲ限リ第二條ノ規定ニ拘ラズ其ノ營業ヲ爲スコトヲ得

前項ニ掲グル者前項ノ期間内ニ第二條ノ免許ヲ申請シタル場合ニ於テ其ノ申請ニ對スル免許又ハ不免許ノ處分ノ日迄亦前項ニ同ジ

本法施行ノ際迄一年以上引續キ有價證券引受業ヲ營ム者第二項ノ期間内ニ免許ヲ申請スルトキハ本法施行後二年ヲ限リ第三條及第四條ノ規定ヲ適用セズ

(國務大臣賀屋興宣君演壇ニ登ル)
○國務大臣(賀屋興宣君) 有價證券引受業法案ニ付キマシテ説明申上ゲマス、御承知ノ如ク公社債ノ發行ハ、銀行債等一部特殊

ノモノヲ除キマシテハ、其ノ大部分ガ銀行、信託會社又ハ證券引受業者ノ手ヲ經テ行ハレテ居ルノデアリマスル、從ッテ一般金融政策ノ上カラ見マシテモ、又生産力擴充ニ要スル資金調達ノ點ヨリ考ヘマシテモ、證券引受業者ノ地位ハ益々重要ナルモノト相成ッテ參リマシタノデアリマス、ソレニモ拘リマセズ今日迄之ニ對シ政府ニ於テ監督ヲ爲シ得ル途ガナカッタ爲ニ、尠カラズ不便ノ點ガアリマシタノデアリマス、仍テ今回ニ是等業者ノ業務ニ付監督ヲ加フルト共ニ、一面其ノ業務ノ堅實ナル發展ヲ期シタイト思フノデアリマス、茲ニ本法草案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上御協贊アラムコトヲ希望致シマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御質疑ガナケレバ本案ノ特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サセマス

(丸龜書記官朗讀)
有價證券引受業法案特別委員

- 侯爵淺野 長之君 子爵三室戶敬光君
- 子爵梅園 篤彦君 男爵高崎 弓彦君
- 男爵沖 貞男君 久保市三郎君
- 油井 德藏君 宇野 勇作君
- 野村 徳七君

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 日程第十一ヨリ日程第二十一迄ノ請願、會議

(左ノ意見書案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ倣フ)

意見書案

支那文化工作施設ニ關スル件

長野市旭町千九十八番地平民林八十司外一名呈出

右ノ請願ハ今ヤ支那ニ於テハ不法ナル思想ト專恣ナル勢力漸ク覺リ新興勢力ノ擡頭ニヨリ庶政一新ニ向ハムトス此ノ秋ニ當リ我國對支文化事業ヲ擴充シ以テ日支兩國民ノ眞ノ提携ヲ圖ルハ緊要ナルニ依リ請願人等所案ノ如ク之カ計畫ヲ樹立實施シ以テ東洋平和ノ確立ニ寄與セシメラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十三年 月 日

貴族院議長 伯爵松平 賴壽

内閣總理大臣伯爵近衛文麿殿

意見書案

未成線鐵道南谷線及南勝線一部速成ニ關スル件

鳥取縣東伯郡倉吉町長松田清松外五名呈出

右ノ請願ハ未成線鐵道南谷線及南勝線ハ山陰、山陽兩道ヲ連絡スル重要線路ニシテ産業、交通並軍事上資スル所多大ナルニ依リ目下工事中ノ南谷線ハ本年度内ニ之ガ完成ヲ期スルト共ニ南勝線ノ中鳥取縣東伯郡南谷村ヨリ岡山縣真庭郡湯原村ニ至ル區間ハ速ニ著工セラレタシトノ

旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十三年 月 日

貴族院議長 伯爵松平 賴壽

内閣總理大臣伯爵近衛文麿殿

意見書案

鳥取縣天神川改修工事線上施行ノ件
鳥取縣東伯郡倉吉町長松田清松外十九名呈出

右ノ請願ハ鳥取縣ノ中央ヲ貫流スル天神川ノ治水工事ハ昭和九年度ヨリ十五箇年繼續事業トシテ現ニ施行中ナリト雖同川ハ其ノ流域東伯郡内大部分ノ町村ニ及フ重要河川ナルニ大風雨毎ニ容易ニ決潰氾濫シ過去數次ノ慘害ハ其ノ地方産業ニ與ヘシ打撃尠カラズ且之ガ爲流域住民ノ不安甚シキハ遺憾ナルニ依リ同工事ハ其ノ事業年度ヲ相當線上ケ又ハ豫定年度割ヲ變更シ最初ノ數年度間ニ大部分ヲ施行セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十三年 月 日

貴族院議長 伯爵松平 賴壽

内閣總理大臣伯爵近衛文麿殿

意見書案

石川縣上熊野郵便局ニ集配事務開始ノ件

石川縣上熊野郵便局長前村十兵衛外一名呈出

右ノ請願ハ石川縣羽咋郡上熊野村附近ハ近時運輸交通機關ノ發達著シク從テ通信ノ敏速ヲ要スルコト切ナルニ拘ラス同村ニ在ル上熊野郵便局ハ無集配郵便局ナル爲住民ノ不利不便尠カラサルニ依リ速ニ同局ニ集配事務ヲ開始セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

内日本動物學會會長谷津直秀外五名呈出

右ノ請願ハ各種ノ天然資源ヲ綜合的且有機的ニ蒐集調査整理スル自然博物館ノ設立ヲ圖ルハ現下ノ情勢ニ鑑ミ緊要事ナルニ依リ速ニ之ヲ實現シ以テ科學教育ノ徹底、文化ノ向上、延テハ利用厚生ニ寄與シ併セテ美術博物館ト共ニ觀光上ノ利便ニモ資セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十三年 月 日

貴族院議長 伯爵松平 賴壽

内閣總理大臣伯爵近衛文麿殿

意見書案

石川縣上熊野郵便局ニ集配事務開始ノ件

石川縣上熊野郵便局長前村十兵衛外一名呈出

右ノ請願ハ石川縣羽咋郡上熊野村附近ハ近時運輸交通機關ノ發達著シク從テ通信ノ敏速ヲ要スルコト切ナルニ拘ラス同村ニ在ル上熊野郵便局ハ無集配郵便局ナル爲住民ノ不利不便尠カラサルニ依リ速ニ同局ニ集配事務ヲ開始セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十三年 月 日

貴族院議長 伯爵松平 頼壽
内閣總理大臣公爵近衛文麿殿

意見書案

和歌山縣勝浦港内暗礁取除工事國庫補助ノ件

出

右ノ請願ハ和歌山縣東牟婁郡勝浦商漁港ハ太平洋ニ面スル良港ニシテ近時益々發展途上ニアリ將來紀勢鐵道ノ完成ト相俟テ産業、交通並軍事上寄與スル所多大ナルニ拘ラス港内東方ニ渡ノ島暗礁散在シ爲ニ港ノ利用價值著シク減殺セラレ之カ除去工事ヲ地元町ニ於テ企圖スルコト久シキモ工費多大ナル爲未實現スル能ハサルニ依リ速ニ國庫補助ノ下ニ和歌山縣營ニテ之カ取除工事ヲ施行セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十三年 月 日

貴族院議長 伯爵松平 頼壽

内閣總理大臣公爵近衛文麿殿

意見書案

豫定線日田、守實間鐵道速成ノ件

大分縣中津市長竹岡吉太郎外二十一名呈出

右ノ請願ハ豫定線日田、守實間鐵道ヲ速成シテ久大線ト耶馬溪鐵道トノ連絡ヲ圖ルハ沿線地方ニ於ケル鑛產資源ノ開發上

多大ノ裨益アルノミナラス大分縣中津築港ノ完成ト相俟テ運輸交通上亦貢獻スル所大ナルニ依リ速ニ之カ實現ヲ圖ラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十三年 月 日

貴族院議長 伯爵松平 頼壽

内閣總理大臣公爵近衛文麿殿

意見書案

中華民國及滿洲國ニ於ケル澱粉輸入關稅ニ關スル件

北海道札幌市北四條西七丁目北海道農會長男爵佐藤昌介呈出

右ノ請願ハ我國澱粉事業ハ近時長足ノ進歩ヲ遂ケ之カ製品ノ國內自給ハ勿論海外市場ニ迄進出シ國際貸借上貢獻スル所多大ナルニ拘ラス隣邦中華民國臨時政府及滿洲國ニ於テ澱粉ニ輸入稅ヲ課セラレツツアルハ我國斯業ノ發展上甚遺憾ナルニ依リ之カ輸入稅ヲ撤廢スルヤウ政府ニ於テ斡旋セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十三年 月 日

貴族院議長 伯爵松平 頼壽

内閣總理大臣公爵近衛文麿殿

意見書案

學校看護婦令制定ノ件

東京市芝區芝公園二十三號地東京市教育局體育課内平民醫師杉田武義外一名呈出

右ノ請願ハ小學校ニ於ケル虛弱兒童ノ激増、結核病ノ蔓延、一般學童ノ體位低下等ノ現状ニ鑑ミ之カ對策ヲ講スルハ緊要事ナルニ拘ラス獨リ學校看護婦ニ對スル職制未制定セラレサルハ甚遺憾ナルニ依リ學校衛生ノ關鍵ヲ等シク把握スル學校醫並學校教員ノ職務規定アルカ如ク速ニ學校看護婦令ヲ制定セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十三年 月 日

貴族院議長 伯爵松平 頼壽

内閣總理大臣公爵近衛文麿殿

意見書案

小樽港鐵道省埋立地内ニ漁船揚場設置ノ件

北海道小樽市若竹町十三番地漁業邊金作外百七名呈出

右ノ請願ハ北海道小樽市ノ海岸一帶ハ産業ノ發展ニ伴ヒ逐次埋立テラレ昔時ヨリ漁業者ノ船揚場並漁獲物處理場トシテ使用シ來リタル海濱地ハ次第ニ岩壁トナリ就中鐵道省ノ施行ニ係リ埋立ハ船入濶二箇所ヲモ含ム廣範圍ノ地域ニ互リ爲ニ漁船並人命ノ損傷頻出シテ斯業者ノ生活ヲ脅威スルコト甚大ナルニ依リ鐵道省埋立

地内適當ノ地點ニ漁船八十隻ヲ陸揚シ得ル程度ノ船揚場ヲ設置セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十三年 月 日

貴族院議長 伯爵松平 頼壽

内閣總理大臣公爵近衛文麿殿

意見書案

北海道山越郡長萬部村ニ函館區裁判所出張所設置ノ件

北海道山越郡長萬部村長田中作平呈出

右ノ請願ハ北海道山越郡長萬部村ハ近時交通並産業ノ發達ニ伴ヒ登記件數增加セルニ拘ラス管轄函館區裁判所八雲出張所ニ至ルノ距離遠ク爲ニ村民ノ不利不便尠カラサルハ甚遺憾ナルニ依リ速ニ同村ニ函館區裁判所出張所ヲ設置セラレタク尙之ニ要スル敷地其ノ他ニ就テハ地元ニ於テ十分用意スヘシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

昭和十三年 月 日

貴族院議長 伯爵松平 頼壽

内閣總理大臣公爵近衛文麿殿

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 是等ノ請願ハ請願委員長ノ報告ノ通り、採擇スルコト

ニ御異議ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナ
ト認メマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 日程ハ全部
終了致シマシタ、次會ノ議事日程ハ決定次
第彙報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日ハ是
ニテ散會致シマス
午前十一時四十二分散會

貴族院議事速記録第十八號正誤

頁 段 行 誤 正
二〇一 三 一九 疆界線 疆界線